

芥川龍之介書目

清 水 康 次

凡 例

一 本書目は、芥川龍之介の生前および没後に刊行された著書・編書についての目録であり、昭和二〇年までに発行されたものを対象とした。全体を「著書」「個人全集」「編書」に分け、発行時期の順序に並べて、それぞれの本の書誌的な概要を記した。芥川の商品と他の著者の作品とを合わせた合著集については、一部（一―40、一―41、一―68）を除いて、本書目では扱わなかった。

二 本書目においては、芥川の商品がはじめて本として刊行されたものを「初刊本」と呼び、原則として同じ書名・同じ収録作品で、後に再刊行されたものを「再刊本」と呼ぶ。再刊本の中で、B6判などの小型の本として刊行されたものを、便宜的に「縮刷本」と呼ぶ。

三 一つの本の重版の経過の中で、初版の紙型が磨滅・損失あるいは焼失し、全頁が新たに組み直されて刊行される場合がある。この新たな組版・紙型に基づいて重版されたものを、本書目においては「後版^{のちばん}」と呼ぶ。この後版に対して、初版の紙型を用いて、そのまま、あるいは一部訂正を加えて印刷刊行された重版を「元版^{もとばん}」と呼ぶ。

また、本文は同じ紙型で印刷されているながら、装丁に顕著な違いのあるものを「異装版」と呼ぶ。

四 書名は原則として表紙および扉に記載のものを採った。表紙・扉・奥付等の記載の間に大きな相違がある場合には注記した。ただし、書名・作品名等は、旧字体を通用の字体に改めた。

五 「収録作品」は、序文や跋文をのぞいた収録作品名を列記した。作品名は、本文中の標題の表記に従い、副題は原則として省略した。「澄江堂雜記」や「文芸的な、余りに文芸的な」のような連作的な随筆ないし評論については、再編集や抄録があるので、その節細目を記した。ただし、「支那遊記」の諸作品「西方の人」「続西方の人」「十本の針」については、一まとまりの作品と考え、細目を略した。

六 「体裁」は、判型、外形、装丁者、および定価を記した。判型について、めやすとした、平均的な表紙の大きさを左記する。左記の寸法に対して±5mm程度を許容範囲とし、それ以上の相違については「四六判大」「四六判小」などと記し、あわせて表紙の実寸を記した。左記以外の特異な判型についても表紙の実寸を記した。

菊判	二二・五×一五・〇cm	A5判	二一・五×一五・〇cm	四六判	一九・五×一三・〇cm
B6判	一八・〇×一二・五cm	菊半截判	一五・五×一一・〇cm	A6判	一五・〇×一〇・五cm
三六判	一六・五×九・五cm	三五判	一五・〇×九・〇cm		

七 「構成」は、扉・序文・本文・跋文・奥付など、一冊の構成と頁数を示し、また、活字の大きさとルビの状態を記した。パラルビの場合、ルビの一つもない頁が多い場合には、「(ルビは少ない)」と付記した。

頁数は、印刷されたノンブルの数值を漢数字で記した。ただし、左右の頁の一方にしかノンブルを印刷しない本の場合には、他方の頁にノンブルを想定し、扉や中扉にも、後のノンブルから逆算してノンブルを想定して、漢数字で記した。序文・目次・広告などでノンブルのない場合には、頁数を数えて算用数字で記した。頁数と頁とを「8(五―一二)頁」などと併記した場合もある。本文中に中扉や挿画があるとき、その一葉にノンブルの

数値が与えられている場合と、その一葉をとばしてノンブルの数値が続いている場合とがある。本書目では、前者を「ノンブル内」、後者を「ノンブル外」と呼んで区別した。

パラフィンカバーの有無、帯の有無、表裏の見返しの前後の遊び紙の有無、扉・口絵などの前の薄紙の有無には言及していない。

八 原本を確認できていないもの、また、初版を確認できていないものについては、書名の上にナを付した。また、その本について注記すべきことがある場合には、その本の項の末尾に*を置いて、それを記した。

なお、本稿の作成にあたり、その所蔵図書を利用させていただきました、大阪女子大学図書館、大阪市立大学図書館、光華女子大学図書館、国立国会図書館、堺市立図書館、天理大学附属天理図書館、同志社大学学術情報センター、日本近代文学館、阪急学園池田文庫、山梨県立文学館、立命館大学図書館に感謝いたします。

〔主要参考文献〕

- 「芥川龍之介著書目録」(『支那遊記』改造社、一九二五・一一、『梅・馬・鶯』新潮社、一九二六・一二、等)
- 『明治文学書目』村上浜吉監修、村上文庫、一九三七・二
- 『著者別書目集覧』川島五三郎・八木福次郎編、八木書店、一九五九・一
- 「芥川龍之介」二、著作年表」(『近代文学研究叢書』第二七巻、昭和女子大学、一九六七・八)
- 『名著複製 芥川龍之介文学館』全二二点、『同 解説』、日本近代文学館、一九七七・七
- 「著作年表」(『芥川龍之介全集』第一二巻、岩波書店、一九七八・七)
- 「年譜」宮坂覺編(『芥川龍之介事典』、明治書院、一九八五・一二)
- 「芥川龍之介著書目録」関口安義編(『芥川龍之介事典』、明治書院、一九八五・一二)

「芥川龍之介著作目録稿」関口安義編『都留文科大学研究紀要』三五、一九九一・一〇〇

「著書目録——芥川龍之介」藤本寿彦編『大川の水・追憶・本所両国』、講談社文芸文庫、一九九五・一

一 著 書

1 羅生門 (初刊本)

初版発行 一九一七(大正六)年五月二三日 初版印刷 一九一七(大正六)年五月一日

発行所 阿蘭陀書房 印刷所 国光印刷株式会社

収録作品 羅生門・鼻・父・猿・孤独地獄・運・手巾・尾形了齋覚え書・虱・酒蟲・煙管・貉・忠義・芋粥。計一四編。

体裁 四六判。布装、角背、函。装丁は芥川、字は菅虎雄筆。定価は一円。

構成 扉、題字、献辞、本文(一一二八〇頁)、跋文(「羅生門の後に」芥川、一一五頁)、目次(2頁)、広告(14頁)、奥付。作品ごとに中扉(ノンブル外)。本文五号活字、パラルビ。

*題字は「君看双眼色／不語似無愁」、献辞は「夏目漱石先生の霊前に献ず」。一九一七(大正六)年一〇月二八日発行の二版では、広告と奥付の順序が逆である。

2 †煙草と悪魔 (新進作家叢書 第八編)

初版発行 一九一七(大正六)年一月一〇日 初版印刷 一九一七(大正六)年一月六日

発行所 新潮社 印刷所 新潮社印刷部

収録作品 煙草と悪魔・或日の大石内蔵之助・野呂松人形・さまよへる猶太人・ひよつとこ・二つの手紙・道祖問

答・MENSURA ZOILI・父・煙管・片恋。計一一編。

体裁 菊半截判。紙装、三方アンカット。定価は四〇銭。

構成 扉、序文（「序に代ふ―私と創作―」芥川、一―四頁）、目次（1頁）、本文（一―一六一頁）、奥付、広告（奥付裏面から7頁）。本文9ポイント、パラルビ（ルビは少ない）。

*右記のデータは、『名著複刻 芥川龍之介文学館』（日本近代文学館、一九七七・七）の複刻本と重版による。

3 鼻 〈新興文芸叢書 第八編〉

初版発行 一九一八（大正七）年七月八日 初版印刷 一九一八（大正七）年七月五日

発行所 春陽堂 印刷所 三協印刷株式会社

収録作品 鼻・羅生門・猿・孤独地獄・運・手巾・尾形了齋覚え書・虱・酒蟲・貉・忠義・芋粥・西郷隆盛。計一三編。

体裁 菊半截判。紙装、角背。定価は五〇銭。

構成 扉、目次（1頁）、本文（一―二五五頁）、奥付、広告（奥付裏面1頁）。本文9ポイント、パラルビ。

*表紙表題は「The Current Literature Library」、背表紙に「鼻 芥川龍之介」。収録作品は、「父」「煙管」を欠き、「西郷隆盛」が加わっている以外は『羅生門』初刊本と同じであり、内容的には、『羅生門』初刊本の再刊に近い。一九二〇（大正九）年五月一日発行の五版は表紙の色などの異なる異装版。

4 傀儡師 （初刊本）

初版発行 一九一九（大正八）年一月二五日 初版印刷 一九一九（大正八）年一月二一日

発行所 新潮社 印刷所 新潮社印刷部

収録作品 奉教人の死・るしへる・枯野抄・開化の殺人・蜘蛛の糸・袈裟と盛遠・或日の大石内蔵之助・首が落ち
 た話・毛利先生・戯作三昧・地獄変。計一一編。

体裁 四六判。紙装、丸背、函。装丁は芥川。定価は一円四〇銭。

構成 扉Ⅰ、扉Ⅱ、献辞、目次（「目録」3頁）、本文（一一三四〇頁）、奥付、広告（奥付裏面から3頁）。作
 品ごとに中扉（ノンブル内）。本文五号活字、パラルビ。

*献辞は、「伯母上に献ず」。

5 羅生門（再刊本）

初版発行 一九一九（大正八）年六月二〇日 初版印刷 奥付に記載なし

発行所 新潮社 印刷所 秀光舎印刷所

収録作品 羅生門・鼻・父・猿・孤独地獄・運・手巾・尾形了齋覚え書・虱・酒蟲・煙管・貉・忠義・芋粥。計一

四編。『羅生門』初刊本（一一一）に同じ。

体裁 四六判。紙装、丸背、函。装丁は芥川、字は菅虎雄筆。定価は一円二〇銭。

構成 扉Ⅰ、題字、扉Ⅱ、献辞、目次（「目録」3頁）、本文（一一二八〇頁）、跋文（「羅生門の後に」芥川、一
 五頁）、奥付、広告（奥付裏面から3頁）。作品ごとに中扉（ノンブル外）。本文五号活字、パラルビ。

*「題字」「献辞」「跋文」は初刊本と同じ。初刊本の紙型を用い、再構成したもの。装丁は異なる。奥付には、

「大正六年五月十八日印刷／大正六年五月二十三日発行」と、初刊本の初版発行日を記し、「大正八年六月二十日
 改版発行」としている。

6 影燈籠 (初刊本)

初版発行 一九二〇(大正九)年一月二八日 初版印刷 一九二〇(大正九)年一月二五日

発行所 春陽堂 印刷所 邦文社

収録作品 蜜柑・沼地・きりしとほろ上人伝・龍・開化の良人・世之助の話・小品四種(黄梁夢・英雄の器・女体・尾生の信)・あの頃の自分の事・じゅりあの・吉助・疑惑・魔術・葱・バルタザアル・春の心臓。計一四編。

体裁 四六判。紙装、丸背、函。装丁は野口功造。定価は二円。

構成 扉I、扉II、目次(「目録」3頁)、本文(一一三六五頁)、跋文(「附記」芥川、1(三六六)頁)、「芥川龍之介著書目録」(1頁)、奥付、広告(奥付裏面1頁)。作品ごとに中扉(ノンブル内)。本文五号活字、パラレルビ(ルビは少ない)。

7 夜来の花 (初刊本)

初版発行 一九二一(大正一〇)年三月一四日 初版印刷 一九二一(大正一〇)年三月一日

発行所 新潮社 印刷所 富士印刷株式会社

収録作品 秋・黒衣聖母・山嶋・杜子春・動物園・捨児・舞踏会・南京の基督・妙な話・鼠小僧次郎吉・影・秋山 図・アグニの神・女・奇怪な再会。計一五編。

体裁 四六判。布装、丸背、函。装丁は小穴隆一、字は小沢忠兵衛筆。定価は二円五〇銭。

構成 扉、目次(「夜来の花目録」4頁)、本文(一一三四七頁)、跋文(「附記」芥川、1頁)、「芥川龍之介著作目録」(1頁)、奥付、広告(奥付裏面1頁)。本文9ポイント、総ルビ。

8 戯作三昧他六篇 〈ヴェストポケット傑作叢書 第三篇〉

初版発行 一九二二（大正一〇）年九月八日 初版印刷 一九二二（大正一〇）年九月五日

発行所 春陽堂 印刷所 川崎活版所

収録作品 戯作三昧・奉教人の死・世之助の話・開化の殺人・魔術・毛利先生。計六編。

体裁 三五判。紙装、二方アンカット。定価は五〇銭。

構成 扉、目次（1頁）、本文（一一一七九頁）、奥付、広告（奥付裏面1頁）。本文9ポイント、パラルビ（ルビは少ない）。

*「ヴェストポケット傑作叢書」の装丁は、春陽堂発行の漱石の縮刷本（『坊っちゃん』『草枕』ほか、三五判、紙装）の装丁に倣ったものであり、原型は津田青楓のデザインによる。一九二六（大正一五）年六月二五日発行の○版は、新組の後版。書名は単に「戯作三昧」となり、装丁も異なっている。

9 地獄変他六篇 〈ヴェストポケット傑作叢書 第四篇〉

初版発行 一九二二（大正一〇）年九月一日 初版印刷 一九二二（大正一〇）年九月一日

発行所 春陽堂 印刷所 川崎活版所

収録作品 地獄変・きりしとほろ上人伝・枯野抄・龍・首が落ちた話・蜜柑と沼地（蜜柑・沼地）。計六編。

体裁 三五判。紙装、二方アンカット。定価は五〇銭。

構成 扉、目次（1頁）、本文（一一一八三頁）、奥付、広告（奥付裏面1頁）。本文9ポイント、パラルビ。

*再刊本（一一二八）がある。

10 或る日の大石内蔵之助他五篇 〈ヴエストポケット傑作叢書 第九篇〉

初版発行 一九二一（大正一〇）年一月一八日 初版印刷 一九二一（大正一〇）年一月二五日

発行所 春陽堂 印刷所 川安印刷所

収録作品 或日の大石内蔵之助・あの頃の自分の事・小品四種（黄梁夢・英雄の器・女体・尾生の信）・袈裟と盛遠・葱・開化の良人。計六編。

体裁 三五判。紙装、二方アンカット。定価は五〇銭。

構成 扉、目次（1頁）、本文（一一一六四頁）、奥付、広告（奥付裏面1頁）。本文9ポイント、パラルビ。

11 †芋粥他六篇 〈ヴエストポケット傑作叢書 第十篇〉

初版発行 一九二二（大正一一）年二月一日 初版印刷 一九二二（大正一一）年一月二九日

発行所 春陽堂 印刷所 川安印刷所

収録作品 杜子春・野呂松人形・酒蟲・MENSURA ZOILI・手巾・芋粥・西郷隆盛。計七編。

体裁 三五判。紙装、二方アンカット。定価は五〇銭。

構成 扉、目次（1頁）、本文（一一一六四頁）、奥付、広告（奥付裏面1頁）。本文9ポイント、パラルビ（ルビは少ない）。

*初版未確認。一九二二（大正一一）年二月二日発行の二版による。書名は表表紙では「芋粥他六篇」、背表紙では「芋粥」。一九二六（大正一五）年六月二五日発行の五版は、新組の後版。書名は表表紙でも、単に「芋粥」とあり、装丁も異なっている。

12 十將軍 〈代表的名作選集 第三十七編〉

初版発行 一九二二（大正一一）年三月一日 初版印刷 一九二二（大正一一）年三月一日

発行所 新潮社 印刷所 富士印刷株式会社

収録作品 將軍・羅生門・鼻・猿・運・藪の中・手巾・虱・秋。計九編。

体裁 菊半裁判。布装、角背。定価は五五銭。

構成 扉、序文（「解題」編者、1頁）、目次（1頁）、本文（一一一六〇頁）、奥付、広告（奥付裏面から5頁）。

本文8ポイント、パラルビ。

*右記のデータは、『名著複製 芥川龍之介文学館』（日本近代文学館、一九七七・七）の複製本と重版による。書名は表表紙では「代表的名作選集 龍之介篇」、背表紙・扉に「將軍」とある。「解題」は収録作品の初出や評価を記すが、「編者」については未詳。

13 点心 〈隨筆感想叢書〉

初版発行 一九二二（大正一一）年五月二〇日 初版印刷 一九二二（大正一一）年五月一日

発行所 金星堂 印刷所 金星堂印刷部

収録作品 点心（御降り・夏雄の事・冥途・長井代助・嘲魔・池西言水・托氏宗教小説・印税・日米関係・Ambrose Bierce・

むし・路）・本の事（各国演劇史・天路歷程・Byronの詩・かげ草）・雑筆（竹田・奇聞・芭蕉・蜻蛉・小供・十千萬堂

日録・隣室・若さ・痴情・竹・貴族・井月・百日紅・大作・水怪・器量・誤謬・不朽・流俗・木犀・Butlerの説・今夜・夢

・日本画の写実・理解・茶釜の蓋置き・西洋人・粗密と純雑）・芸術その他・漢文漢詩の面白味・短歌雑感・骨董羹

（別乾坤・軽薄・俗漢・同性恋愛・同人雑誌・雅号・青楼・言語・誤訳・戯訓・俳句・松並木・日本・大雅・妖婆・柔術・

昨日の風流・発音・傲岸不遜・煙草・ニコチン夫人・一字の師・応酬・白雨禪・批評・語謬・入月・遺精・後世・罪と罰・悪魔・聊齋志異・麗人図・売色鳳香餅・泥黎口業）・東京小品（鏡・下足札・漱石山房の秋）・京都日記（光悦寺・竹・舞妓）・後世・軍艦金剛航海記・窓・着物・鑑定・葬儀記・問に答へて（昔）・永久に不愉快な二重生活・月評の事・イズムと云ふ語の意味次第・有島生馬君に与ふ・俳画展覧会を觀て・袈裟と盛遠の情交）・人の印象（樗牛の事・泡鳴氏の事・久米正雄氏の事・佐藤春夫氏の事・豊島与志雄氏の事・江口渙氏の事・小杉未醒氏の事・近藤浩一路氏の事・龍村平藏氏の芸術）・一つの作が出来上るまで・一番気乗のする時・文学好きの家庭から・「我鬼窟日録」より

・ LOS CAPRICIOS (マダ・眼・疲労・魔女・遊び・Don Juan aux enfers・幽霊)・パステルの龍(月光・陶器の亭・夕明り・洒落者・作詩術)・饒舌・南瓜・悪魔・ババベックと婆羅門行者・「心の王国」跋・井月句集の跋

・ 一茶句集の後に・「バルタザアル」の序・劇評一束(九年一月明治座評・九年十月市村座評・九年十一月明治座評・十年一月帝国劇場評・十年二月歌舞伎座評)・計三二編。

体裁 三六判大(18・6×11・0cm)。布装、角背、一方アンカット。装丁は森田恒友。定価は一円八〇銭。

構成 扉Ⅰ、扉Ⅱ、序文(「自序」芥川、1頁)、目次(一―四頁)、本文(一―三七七頁)、奥付。各編ごとに中扉(ノンブル内)。本文9ポイント、パラルビ(ルビは非常に少ない)。

*金星堂の「随筆感想叢書」の第五編として刊行されているが、シリーズ名は本自体には記されていない。

14 沙羅の花

初版発行 一九二二(大正一一)年八月一三日 初版印刷 一九二二(大正一一)年八月一〇日

発行所 改造社 印刷所 博文館印刷所

収録作品 「短編小説」羅生門・鼻・運・藪の中・奉教人の死・きりしとほろ上人伝・るしへる・枯野抄・或日の

大石内蔵之助・南京の基督・秋山図・開化の殺人・舞踏会・秋・將軍・葱・蜜柑　〔童話〕魔術・杜子春・蜘蛛の糸　〔紀行文〕槍ヶ嶽紀行・南国の美人　〔小品文〕尾生の信・東洋の秋・沼　〔隨筆〕澄江堂雜記（御降り・池西言水・貴族・百日紅・不朽・流俗・Belleの說・泡鳴氏の事・漱石山房の秋）。計二六編。

体裁　四六判。布装、丸背、函。装丁は小穴隆一。定価は二円八〇銭。

構成　扉I、扉II、序文（「自序」芥川、1頁）、目次（「沙羅の花目録」6頁）、本文（一一四七八頁）、奥付、広告（奥付裏面から3頁）。本文9ポイント、総ルビ。

*「沙羅の花目録」に、「小田淳校」として、校正者の名がある。「澄江堂雜記」は、『点心』（一一13）の収録作品の抄録。

15 †奇怪な再会　〈金星堂名作叢書　第八編〉

初版発行　一九二二（大正一一）年一〇月二〇日　初版印刷　一九二二（大正一一）年一〇月二〇日（？）

発行所　金星堂

印刷所　金星堂印刷所

収録作品　妙な話・黒衣聖母・影・奇怪な再会・アグニの神。計五編。

体裁　菊半截判。紙装、角背、カバー。定価は一二版では六〇銭。

構成　扉I、扉II、目次（1頁）、本文（一一一六二頁）、奥付、広告（奥付裏面から5頁）。本文9ポイント、パラルビ（ルビは非常に少ない）。

*初版未確認。右のデータは、一九二六年（大正一五）年九月一〇日発行の一二版による。初版発行日を一〇月二五日とする文献もある。

16 邪宗門 (初刊本)

初版発行 一九二二(大正一一)年一月二三日 初版印刷 一九二二(大正一一)年一月二〇日

発行所 春陽堂 印刷所 東洋印刷株式会社

収録作品 邪宗門

体裁 菊半截判。紙装、丸背、函。定価は一円。

構成 扉I、扉II、本文(一一一五〇頁)、跋文(「邪宗門」の後に)。芥川、1(一五二)頁、奥付、広告(奥付裏面から3頁)。本文五号活字、総ルビ。

17 春服 (初刊本)

初版発行 一九二二(大正一一)年五月一日 初版印刷 一九二二(大正一一)年五月一日

発行所 春陽堂 印刷所 東洋印刷株式会社

収録作品 六の宮の姫君・トロツコ・おぎん・往生絵巻・お富の貞操・三つの宝・庭・神神の微笑・奇遇・藪の中
・母・好色・報恩記・老いたる素戔鳴尊・わが散文詩(秋夜・椎の木・虫干・線香・日本の聖母・玄関)。計一五編。
体裁 四六判。布装、丸背、函。装丁は小穴隆一。定価は二円五〇銭。

構成 扉I、口絵(作者写真、年少時代)、扉II、目次(「春服目録」4頁)、本文(一一三二二頁)、跋文(「春服」の後に)。芥川、1頁、奥付、広告(奥付裏面1頁)。本文9ポイント、総ルビ。

18 羅生門 (縮刷本)

初版発行 一九二二(大正一一)年六月二七日 初版印刷 一九二二(大正一一)年六月二二日

発行所 新潮社 印刷所 富士印刷株式会社

収録作品 羅生門・鼻・父・猿・孤独地獄・運・手巾・尾形了齋寛え書・虱・酒蟲・貉・忠義・芋粥。計一三編。体裁 B6判。紙装、一方アンカット。装丁は芥川。定価は九〇銭。

構成 扉I、扉II、献辞、目次（「目録」3頁）、本文（一一二〇二頁）、跋文（「羅生門の後に」芥川、4（二〇三―二〇六）頁）、奥付、広告（奥付裏面から5頁）。本文9ポイント、パラルビ。

*『羅生門』初刊本（一一一）の縮刷本としての再刊であるが、収録作品は「煙管」を欠き、一三作品である。献辞・跋文の内容は初刊本と同じ。

19 傀儡師（縮刷本）

初版発行 一九二三（大正一二）年六月二七日 初版印刷 一九二三（大正一二）年六月二三日

発行所 新潮社 印刷所 富士印刷株式会社

収録作品 奉教人の死・るしへる・枯野抄・開化の殺人・蜘蛛の糸・袈裟と盛遠・或日の大石内蔵之助・首が落ちた話・毛利先生・戯作三昧・地獄変。計一一編。『傀儡師』初刊本（一一―四）と同じ。

体裁 B6判。紙装、一方アンカット。装丁は芥川。定価は一円。

構成 扉I、扉II、献辞、目次（「目録」3頁）、本文（一一二六五頁）、奥付、広告（奥付裏面から5頁）。本文9ポイント、パラルビ。

*献辞の内容は初刊本と同じ。

20 春服（縮刷本）

九版発行 一九二四（大正一三）年四月一〇日

発行所 春陽堂

印刷所 博文館印刷所

収録作品 六の宮の姫君・トロツコ・おぎん・往生絵巻・お富の貞操・三つの宝・庭・神神の微笑・奇遇・藪の中
 ・母・好色・報恩記・老いたる素戔嗚尊・わが散文詩（秋夜・椎の木・蟲干・線香・日本の聖母・玄関）。計一五編。
 『春服』初刊本（一一七）と同じ。

体裁 B 6判。紙装。定価は一円二〇銭。

構成 扉、目次（「春服目録」3頁）、序文（「普及版「春服」の前に。」著者、1頁）、本文（一一二九二頁）、跋文
 （「春服」の後に。」芥川、2頁）、奥付、広告（奥付裏面から7頁）。本文9ポイント、総ルビ。

*初版未確認。九版の奥付では、初版発行を一九二二（大正一一）年二月一八日とし、初版印刷を同年二月一五日としているが、芥川の序文（「普及版「春服」の前に。」）の日付が「大正十三年三月」であることなどから、この初版発行の日付は疑わしい。「九版」とされているものが、事実上の初版であった可能性がある。右記の概要は九版による。跋文の内容は、『春服』初刊本のそれと同じ。

21 夜来の花（縮刷本）

初版発行 一九二四（大正一三）年五月一〇日 初版印刷 一九二四（大正一三）年五月五日

発行所 新潮社 印刷所 京華社

収録作品 秋・黒衣聖母・山嶋・杜子春・動物園・捨児・舞踏会・南京の基督・妙な話・鼠小僧次郎吉・影・秋山
 図・アグニの神・女・奇怪な再会。計一五編。『夜来の花』初刊本（一一七）と同じ。

体裁 B 6判。紙装、一方アンカット。定価は一円三〇銭。

構成 扉、目次（「夜来の花目録」4頁）、本文（一一三三五頁）、「芥川龍之介著作目録」（1頁）、奥付、広告（奥付裏面から3頁）。本文9ポイント、パラルビ（ルビは少ない）。

22 黄雀風 (初刊本)

初版発行 一九二四(大正一三)年七月一八日 初版印刷 一九二四(大正一三)年七月一三日
 発行所 新潮社 印刷所 富士印刷株式会社

収録作品 一塊の土・おしの・金將軍・不思議な島・雛・文放古・糸女覚え書・子供の病氣・寒さ・あばばばば・魚河岸・或恋愛小説・少年・保吉の手帳から・お時儀・文章。計一六編。
 体裁 四六判。紙装、丸背、函。装丁は小穴隆一。定価は二円三〇銭。

構成 扉、目次(「黄雀風目録」4頁)、本文(一一三〇四頁)、跋文(「黄雀風」の後に。「芥川、1頁)、「芥川龍之介著書目録」(一一六頁)、奥付、広告(2頁)。作品ごとに中扉(ノンブル内)。本文9ポイント、総ルビ。

*「黄雀風目録」に、校正者として「神代種亮」の名があり、跋文にもそのことへの言及がある。

23 百艸 (感想小品叢書 第八編)

初版発行 一九二四(大正一三)年九月一七日 初版印刷 一九二四(大正一三)年九月一二日
 発行所 新潮社 印刷所 富士印刷株式会社

収録作品 漱石山房の冬・支那の画(松樹図・蓮鷲図・鬼趣図)・長崎小品・仮面(鷗外先生・恒藤恭・久米正雄・谷崎潤一郎・佐藤春夫・飯田蛇笏・久保田万太郎・正岡子規)・看棧より(新富座の「二谷嫩軍記」・帝劇の露西亞舞踊・市村座の「四谷怪談」・有楽座の「女殺油地獄」・金春会の「隅田川」・寄席)・澄江堂雜記(大雅の画・にきび・將軍・毛生え葉・芸術至上主義・一切不捨・赤西蠣太・釣名文人・歴史小説・世人・火渡りの行者・俊寛・漢字と仮名と・希臘末期の人・比喻・告白・チャプリン・あそび・塵勞・イバネス・船長・相撲・「とても」・猫・版数・家)・日録抄(澄江堂日録・長崎日録)・大正十二年九月一日の大震に際して(大震雜記・大震日録・大震に際せる感想・東京人・廃都東

京・震災の文芸に与ふる影響）・解嘲・問者に答ふ（「改造」プロレタリア文芸の可否を問ふ・「中央公論」徹宵作文の感を問ふ・「文章倶楽部」東京に関する感想を問ふ・「新家庭」旅行と女人に関する感想を問ふ・「婦人画報」如何なる女人を好むかを問ふ・「新潮」月評の存廢を問ふ・「新潮」文壇沈滞の所以を問ふ・「新潮」大正十二年度の計画を問ふ・野人生計事（清閑・室生犀星・キュウピッド）・続野人生計事（放屁・「女と影」・ピエル・ロティの死・新緑の庭・春の日のさした往来をぶらぶら一人歩いてゐる・霜夜・蒐集・知己料・小説の戯曲化・妄問妄答・梅花に対する感情・暗合・コレラ・長崎・東京田端）・わが月評（大正八年六月の文壇・大正九年四月の文壇）。計一二編。

体裁 B6判。紙装。装丁は恩地孝四郎。定価は一円二〇銭。

構成 扉I、目次（一一六頁）、扉II、本文（三一二五頁）、奥付、広告（奥付裏面から3頁）。各編ごとに中扉（ノンブル内）。本文9ポイント、パラルビ（ルビは非常に少ない）。

*「澄江堂雜記」は、『沙羅の花』（一一一四）の「澄江堂雜記」とは別内容である。

24 報恩記 〈歴史物傑作選集 第二巻〉

初版発行 一九二四（大正一三）年一〇月二五日 初版印刷 一九二四（大正一三）年一〇月一五日

発行所 而立社

印刷所 博文館印刷所

収録作品 奉教人の死・きりしとほろ上人伝・るしへる・おしの・じゅりあの・吉助・尾形了齋覚え書・糸女覚え書・おぎん・煙草と悪魔・さまよへる猶太人・黒衣聖母・報恩記・神々の微笑・邪宗門。計一四編。

体裁 四六判。布装、丸背。定価は一円八〇銭。

構成 扉、序文（「歴史物傑作選集に就いて」編者、一一二頁）、目次（一一二頁）、本文（一一二九〇頁）、奥付、広告（奥付裏面1頁）。本文9ポイント、ルビなし。

*序文の「編者」については未詳。

25 影燈籠 (縮刷本)

九版発行 一九二四(大正一三)年十一月五日

発行所 春陽堂

印刷所 常磐印刷株式会社

収録作品 蜜柑・沼地・きりしとほろ上人伝・龍・開化の良人・世之助の話・小品四種(黄梁夢・英雄の器・女体・

尾生の信)・あの頃の自分の事・じゅりあの・吉助・疑惑・魔術・葱・バルタザアル・春の心臓。計一四編。

『影燈籠』初刊本(一一六)と同じ。

体裁 B6判。紙装。定価は一円二〇銭。

構成 扉、目次(「影燈籠目録」4頁)、本文(一一二四八頁)、跋文(「附記」芥川、1(二四九)頁)、校正者名

(「神代種亮校」1(二五〇)頁)、奥付、広告(奥付裏面から9頁)。本文9ポイント、パラルビ(ルビは少ない)。

*初版未確認。九版の奥付では、初版発行の日付を、初刊本の初版発行の日付(一九二〇(大正九)年一月二八日)としている。『支那遊記』の「芥川龍之介著書目録」に「影燈籠 普及版 大正十三年十一月春陽堂刊」とあることから、「九版」とされているものが、事実上の初版であった可能性が考えられる。右記の概要は九版による。「附記」は、『影燈籠』初刊本のそれと同じ。

26 芥川龍之介集 (現代小説全集 第一卷)

初版発行 一九二五(大正一四)年四月一日 初版印刷 一九二五(大正一四)年三月二〇日

発行所 新潮社

印刷所 富士印刷株式会社

収録作品 六の宮の姫君・羅生門・鼻・藪の中・運・地獄変・奉教人の死・るしへる・きりしとほろ上人伝・おぎ

ん・おしの・黒衣聖母・首が落ちた話・南京の基督・枯野抄・戯作三昧・老いたる素戔鳴尊・蜘蛛の糸・魔術

・杜子春・三つの宝・開化の殺人・雛・秋・庭・トロッコ・一塊の土・父・母・手巾・將軍・葱・不思議な島

・MENSURA ZOILI・蜜柑・保吉の手帳から・寒さ・お時儀・子供の病氣・野呂松人形。計四〇編。

体裁 菊判。クロース装、丸背、天金、函。装丁は恩地孝四郎、字は菅虎雄筆。予約配本のため、奥付には定価の

記載はない。一巻あたり四円五〇銭。

構成 扉Ⅰ、扉Ⅱ、口絵（肖像写真）、題辭（自筆影印）、目次（一一四頁）、扉Ⅲ、本文（三一六〇六頁）、「芥川

龍之介年譜」（一一三頁）、奥付、広告（奥付裏面一頁）。本文9ポイント、パラレビ。

*「芥川龍之介年譜」は自筆年譜である。「現代小説全集」の第二次の配本（広告では「第二回予約」として刊行された、一九二六（大正一五）年五月一日初版発行の再刊本がある。

27 支那遊記（初刊本）

初版発行 一九二五（大正一四）年一月三日 初版印刷 一九二五（大正一四）年一月一日

発行所 改造社 印刷所 常盤印刷株式会社

収録作品 上海遊記（節細目は省略）・江南遊記（節細目は省略）・長江遊記（節細目は省略）・北京日記抄（節細目は

省略）・雑信一束（節細目は省略）。計五編。

体裁 四六判。紙装、丸背、函。装丁は小穴隆一。定価は二円。

構成 扉、献辭、序文（「自序」芥川、一一二頁）、目次（「支那遊記目録」一一一〇頁）、本文（一一二六五頁）、

「芥川龍之介著書目録」（一一八頁）、奥付、広告（奥付裏面一頁）。各編ごとに中扉（ノンブル内）。本文9ポ

イント、総ルビ。

* 献辞は「薄田淳介氏に」。「目録」に「小穴隆二画／伊上凡骨刻／神代種亮校」と記されている。

28 †地獄変 (再刊本)

初版発行 一九二六(大正一五)年二月八日 初版印刷 一九二六(大正一五)年二月五日

発行所 文芸春秋社出版部 印刷所 新倉東文堂

収録作品 地獄変・きりしとほろ上人伝・枯野抄・龍・首が落ちた話・蜜柑と沼地(蜜柑・沼地)。計六編。
体裁 三六判。紙装、二方アンカット。装丁は小穴隆一か。定価は五五銭。

構成 扉、目次(1頁)、本文(一一一―一八三頁)、奥付、広告(奥付裏面1頁)。本文9ポイント、パラルビ。

* 初版未確認。一九二六(大正一五)年二月一〇日発行の五版による。『地獄変他六篇』(一一―九)の再刊本。活字の組み方や頁数は同じだが新組。調査した原本は、背表紙では書名を「首が落ちた話(地獄変)」とし、『或日の大石内蔵之助』(一一―29)とともに、「芥川名著全集」と記された函に入っている。

29 †或日の大石内蔵之助 (再刊本)

初版発行 一九二六(大正一五)年二月八日 初版印刷 一九二六(大正一五)年二月五日

発行所 文芸春秋社出版部 印刷所 新倉東文堂

収録作品 或日の大石内蔵之助・あの頃の自分の事・小品四種(黄梁夢^(マ)・英雄の器・女体・尾上の信^(マ))・袈裟と盛遠・葱・開化の良人。計六編。

体裁 三六判。紙装、二方アンカット。装丁は小穴隆一か。定価は五五銭。

構成 扉、目次(1頁)、本文(一一―一六三頁)、奥付、広告(奥付裏面1頁)。本文9ポイント、パラルビ。

*初版未確認。一九二六（大正一五）年二月一〇日発行の五版による。『或る日の大石内蔵之助他五篇』（一―10）の再刊本。活字の組み方や頁数は同じだが新組。調査した原本（いずれも五版）に、背表紙の書名を「或日の大石内蔵助」とするものと、「或日の大石内蔵之助」とするものがあり、後者は、『地獄変』（一―28）とともに、「芥川名著全集」と記された函に入っている。

30 梅・馬・鶯

初版発行 一九二六（大正一五）年二月二五日 初版印刷 一九二六（大正一五）年二月二一日

発行所 新潮社 印刷所 富士印刷株式会社

収録作品 「小論文」「私」小説論小見・発句私見（十七音・季題・詩語・調べ）・芸術その他・小説の戯曲化・文部省の仮名遣改定案について・大久保湖州・芭蕉雑記（著書・装幀・自釈・詩人・未来・俗語・耳・同上・画・衆道・海彼岸の文学・詩人・鬼趣） 「小品第二」御降り・露・キュウピッド・知己料・霜夜・鏡・舞妓・漱石山房の秋・漱石山房の冬・雪・詩集・ピアノ・臘梅・沙羅の花・二人の友 「小品第二」窓・着物・ユダ・疲労・魔女・Don Juan aux enfers・沼・東洋の秋・南瓜・新緑の庭 「紀行」軍艦金剛航海記・槍ヶ嶽紀行 「観劇」記」帝劇の露西亞舞踊・市村座の「四谷怪談」・金春会の「隅田川」・寄席・Gaiety座の「サロメ」 「人物」記」森先生・岩野泡鳴氏・谷崎潤一郎氏・佐藤春夫氏・久保田万太郎氏・小杉未醒氏・近藤浩一路氏・恒藤恭氏・島木赤彦氏・滝田哲太郎氏 「澄江堂雑記」大雅の画・にきび・將軍・毛生え葉・芸術至上主義・一切不捨・赤西蠣太・釣名文人・歴史小説・世人・火渡りの行者・俊寛・漢字と仮名と・希臘末期の人・比喩・告白・チャプリン・あそび・塵勞・イバネス・船長・相撲・「とても」・続「とても」・丈艸の事・版数・放屁・袈裟と盛遠・後世・「昔」・徳川末期の文芸 「序跋」「菊池寛全集」の序・「蕪村全集」の序・「新作仇討

全集」の序・「未翁南甫句集」の序・「春の外装」の序・「心の王国」の跋・「井月句集」の跋
 「書籍批 評」 「太虚集」読後・「ふゆくさ」読後・「続晋明集」読後・「高麗の花」読後・「女と影」読後
 「翻訳」 バルタザアル・春の心臓・月光外一章（月光・陶器の亭） 「発句」 （七四句） 「短歌」 （二五首） 「印譜」 （八点）。

体裁 四六判。布装、丸背、函。装丁は佐藤春夫。定価は二円五〇銭。

構成 扉Ⅰ、序文（「小序」芥川、1頁）、目次（「梅・馬・鷺目録」9頁）、扉Ⅱ、本文（一―四六八頁）、「芥川龍之介著書目録」（一―六頁）、奥付、広告（奥付裏面1頁）。部立ごとに中扉（ノンブル内）。本文9ポイント、パラルビ（ルビは少ない）。

*「澄江堂雜記」は、『百艸』（一―23）、収録の「澄江堂雜記」に数節の付加と削除を施したものである。

31 湖南の扇（初刊本）

初版発行 一九二七（昭和二）年六月二〇日 初版印刷 一九二七（昭和二）年六月一六日

発行所 文芸春秋社出版部

印刷所 新倉東文堂

収録作品 湖南の扇・温泉だより・浅草公園・誘惑・春の夜・尼提・カルメン・彼・彼第二・僕は・O君の新秋・春の夜は・鬼ごっこ・或社会主義者・塵労・年末の一日・海のほとり・蜃気楼。計一八編。

体裁 四六判。紙装、丸背、函。装丁は小穴隆一。定価は二円二〇銭。

構成 扉Ⅰ、扉Ⅱ、目次（「湖南の扇目録」4頁）、本文（一―二三六頁）、奥付、広告（奥付裏面1頁）。本文9ポイント、総ルビ。

*一九三九（昭和一四）年二月二二日発行の九版や、一九四〇（昭和一五）年二月二二日発行の一〇版は紙質の

違いのため、本の厚さが三分の二以下に薄くなった異装版。それ以前に、再刊本（一―45）がある。

32 芥川龍之介集

初版発行 一九二七（昭和二）年九月一二日 初版印刷 一九二七（昭和二）年九月五日

発行所 新潮社 印刷所 富士印刷株式会社

収録作品 内容としては、『芥川龍之介集』（現代小説全集第一巻、一―26）と『梅・馬・鶯』（一―30）を合本としたもの。前者の収録作品が「小説」という部立の下に、その順序で配列され、次いで後者の収録作品が部立を含めて、そのままに配列され、「年譜」が本文末尾に置かれている。

体裁 四六判。布装、丸背、函。装丁は小穴隆一。定価は二円八〇銭。

構成 扉Ⅰ、口絵（肖像写真）、題辞（自筆影印）、目次（芥川龍之介集目録）一―六頁）、扉Ⅱ、本文（一―七八二頁）、奥付、広告（奥付裏面一頁）。各部立ごとに中扉（ノンブル内）。本文8ポイント、パラルビ。

*口絵・題辞は、『芥川龍之介集』（現代小説全集第一巻）と同じ。本文末尾の「年譜」（七七七―七八〇頁）は、『芥川龍之介集』（現代小説全集第一巻）の巻末の「芥川龍之介年譜」に、新潮社編集部が追補を施したものである。

33 侏儒の言葉（初刊本）

初版発行 一九二七（昭和二）年二月六日 初版印刷 一九二七（昭和二）年二月三日

発行所 文芸春秋社出版部 印刷所 新倉東文堂

収録作品 侏儒の言葉（星・鼻・修身・好悪・侏儒の祈り・自由意志と宿命と・小児・武器・尊王・創作・鑑賞・古典・幻滅した芸術家・告白・人生・地上楽園・暴力・「人間らしさ」・椎の葉・仏陀・政治的天才・恋は死よりも強し・地獄・醜聞・輿論・敵意・ユウトピア・危険思想・悪・二宮尊徳・奴隷・悲劇・強弱・S・Mの智慧・社交・瑣事・神・民衆・チエホ

フの言葉・服装・処女崇拜・礼法・貝原益軒・或弁護・制限・火星・Blanguの夢・庸才・機智・政治家・事実・武者修業
 ・ユウゴオ・ドストエフスキイ・フロオベル・モオパスサン・ポオ・或資本家の論理・批評学・親子・可能・ムアアの言葉
 ・大作・わたしの愛する作品・「虹霓関」を見て・経験・アキレス・芸術家の幸福・好人物・罪・桃李・偉大・広告・追加
 広告・再追加広告・芸術・天才・謙・レニン・賭博・懷疑主義・正直・虚偽・諸君・忍従・企図・兵卒・軍事教育・勤儉尚
 武・日本人・倭寇・つれづれ草・徴候・恋愛と死と・身代り・結婚・多忙・男子・行儀・自由・言行一致・方便・芸術至上
 主義者・唯物史観・支那・小説・文章・女の顔・世間智・恒産・彼等・作家所生の言葉・幼児・池大雅・荻生徂徠・作家・
 弁護・女人・理性・自然・処世術・女人崇拜・理性・運命・教授・知徳合一・芸術・自由思想家・宿命・彼の幸福・小説家
 ・言葉・或物質主義者の信条・阿呆・処世的才能・懺悔・「新生」読後・トルストイ・二つの悲劇・ストリントベリイ・或
 理想主義者・恐怖・我我・恋愛・或老練家・自殺・革命・死・「いろは」短歌・運命・嘲けるもの・或日本人の言葉・人間
 的な・余りに人間的な・或才子・希臘人・聖書・或孝行者・或悪魔主義者・或自殺者・或左傾主義者・無意識・矜誇・偶像
 ・天国の民・或仕合せ者・自己嫌悪・外見・人間的な・罰・罪・わたし・人生・民衆・或夜の感想（以上、「又」は省略）
 ・澄江堂雑記（夏目先生の書・霜の来る前・澄江堂・雅号・シルレルの頭蓋骨・美人禍・放心・同上）・病中雑記・追
 憶（埃・位牌・庭木・「てつ」・夢中遊行・「つうや」・郵便箱・灸・剝製の雉・幽霊・馬車・水屋・幼稚園・相撲・宇治
 紫山・学問・活動写真・川開き・ダアク一座・中洲・壽座・いぢめつ子・画・水泳・体刑・大水・答案・加藤清正・七不思
 議・動員令・久井田卯之助・火花・日本海々戦・柔術・西川英次郎・勉強・金・虚栄心・発火演習・渾名・猫の魂・草双紙
 ・お狸様・蘭）・文芸的な、余りに文芸的な（「死者生者」・時代・日本の文芸の特色・アナトオル・フランス・自然主
 義・ハムズン・語彙・コクトオの言葉・「若し王者たりせば」・二人の紅毛画家）。計五編。

体裁 四六判。紙装、丸背、函。装丁は小穴隆一。定価は二円二〇銭。

構成 扉Ⅰ、扉Ⅱ、序文（「侏儒の言葉」の序）芥川、1頁）、目次（「侏儒の言葉目録」4頁）、本文（一一二二〇頁）、「芥川龍之介著書目録」（一一七頁）、奥付、広告（奥付裏面1頁）。はさみこみの編集後記（無題、無署名）が一葉ある。本文五号活字、パラルビ（ルビは非常に少ない）。

*「澄江堂雑記」は、『沙羅の花』（一一一四）収録の「澄江堂雑記」とも、『梅・馬・鶯』（一一三〇）収録の「澄江堂雑記」とも別内容である。一九三九（昭和一四）年一月二日発行の九版は紙質の違いのため、本の厚さが三分の二程度に薄くなった異装版。それ以前に、一九三〇（昭和五）年一月二三日発行の再刊本（一一四四）がある。

34 澄江堂句集 印譜附

初版発行（一九二七（昭和二）年二月二〇日）

発行所（文芸春秋社出版部）

印刷所 未詳

収録作品 俳句七七句

体裁 和本、27・0×13・7cm。二冊。四つ目綴。帙。

構成 澄江堂句集（一一二六頁）。澄江堂印譜（一一一四丁）。はさみこみの「印譜目録」一葉と、自筆影印の短冊一葉がある。句集の本文は四号活字、パラルビ。

*書名は帙の題簽による。芥川の四十九日忌に芥川家が配ったもの。各冊の表紙は無地で、扉等はなく、版心に書名がある。刊記もない。同様のものが、右の日付で文芸春秋社出版部から市販されたとされるが未確認。句集の内容は、『梅・馬・鶯』（一一三〇）の「発句」七四句に三句を追加したもの。

35 芥川龍之介集 〈現代日本文学全集 第三十篇〉

初版発行 一九二八（昭和三）年一月九日 初版印刷 一九二八（昭和三）年一月五日

発行所 改造社

印刷所 秀英舎

収録作品 羅生門・鼻・父・運・手巾・尾形了齋覚え書・貉・芋粥・MENSURA ZOILI・奉教人の死・るしへ
 る・枯野抄・開化の殺人・袈裟と盛遠・或日の大石内蔵之助・首が落ちた話・戯作三昧・地獄変・西郷隆盛・
 蜜柑・沼地・きりしとほろ上人伝・龍・世之助の話・あの頃の自分の事・葱・秋・黒衣聖母・山嶋・舞踏会・
 南京の基督・鼠小僧次郎吉・秋山凶・將軍・六の宮の姫君・トロッコ・お富の貞操・庭・藪の中・母・好色・
 報恩記・老いたる素戔鳴尊・一塊の土・不思議な鳥・雛・糸女覚え書・子供の病氣・寒さ・あばばば・保吉
 の手帳から・お時儀・湖南の扇・年末の一日・蜃気楼・点鬼簿・玄鶴山房・河童・齒車・或阿呆の一生・西方
 の人(節細目は省略)・続西方の人(節細目は省略)・或旧友へ送る手記・尾生の信・東洋の秋・沼・澄江堂雜
 記(一)(節細目は『沙羅の花』の「澄江堂雜記」と同じ)・澄江堂雜記(二)(節細目は『梅・馬・鶯』の「澄江堂雜
 記」と同じ)・澄江堂雜記(三)(節細目は『侏儒の言葉』の「澄江堂雜記」と同じ)・槍ヶ嶽紀行・上海游記・江
 南游記・長江游記。計七三編。 「以下、作品の間の埋め草として抄録ないし全文収録されたもの。本文の順
 序に従わず、出典ごとに列举する。」点心(長井代助・むし・落)・雜筆(井月・大作・理解)・芸術その他・骨
 董羹(大雅・妖婆・煙草・ニコチン夫人・白雨禪・悪魔)・東京小品(鏡)・文学好きの家庭から・LOS CAP-
 RICHOS(ユダ・眼・疲労・魔女・Don Juan aux enfers)・パステルの龍(月光・陶器の亭・夕明り・洒落者)〈以上
 『点心』より〉。漱石山房の冬・日録抄(澄江堂日録)・続野人生計事(新緑の庭・春の日のさした往来をぶらぶら
 一人歩いてゐる・霜夜・知己料・暗合・コレラ)〈以上『百艸』より〉。芭蕉雜記(耳)・雪・詩集・臘梅・沙羅の
 花・二人の友・短歌二五首(以上『梅・馬・鶯』より)・侏儒の言葉(鼻・修身・好悪・侏儒の祈り・小児・創作
 ・鑑賞・人生・地上楽園・「人間らしさ」・仏陀・瑣事・火星・ユウゴオ・ドストエフスキイ・フロオベル・モオパスサン

・ポオ・親子・天才・懷疑主義・忍従・多忙・男子・行儀・女の顔・女人・懺悔・トルストイ・わたし（以上『侏儒の言葉』より）。俳句四八句（『澄江堂句集』より）。「越びと」（旋頭歌）二五首。（山吹）（詩）一編。

体裁 菊判。装丁に二種あり。「並製」は布装、角背。「特製」は布装、丸背、天金。装丁は杉浦非水。予約配本の

ため奥付に定価の記載はない。一卷あたり、「並製」は一円、「特製」は一円四〇銭。

構成 扉、口絵（肖像写真と筆跡）、目次（1頁）、「芥川龍之介小伝」（無署名、1頁）、本文（三一五四八頁）、

「著作年表」（2（五四九―五五〇）頁）、奥付。本文六号活字、三段組、総ルビ。

*月報を付す。

36 三つの宝（初刊本）

初版発行 一九二八（昭和三）六月二〇日 初版印刷 一九二八（昭和三）年六月一日

発行所 改造社

印刷所 秀英舎

収録作品 白・蜘蛛の糸・魔術・杜子春・アグニの神・三つの宝。計六編。

体裁 菊倍判（30・8×22・2cm）。布装、丸背、函。装丁は小穴隆一。定価は五円。

構成 扉、序文（「序に代へて／他界へのハガキ」佐藤春夫、一―三頁）、目次（「三つの宝目録」4（五一―八）頁）、

本文（九―一五六頁）、跋文（「跋」小穴隆一、一五七―一五九頁）、奥付。各作品に二葉ずつ、計一二葉の挿

画（小穴隆一画）がある（ノンブル内）。本文四号活字、総ルビ。

37 偷盜（岩波文庫）

初版発行 一九二八（昭和三）年一月二〇日 初版印刷 一九二八（昭和三）年一月一日印刷

発行所 岩波書店

印刷所 三秀舎

収録作品 偷盜

体裁 菊半裁判。紙装。定価は二〇銭。

構成 扉、本文(三一九九頁)、跋文(「偷盜」に就て)佐佐木茂索、3(二〇〇一—二〇二頁)、奥付、広告(奥付裏面から5頁)。本文8ポイント、総ルビ。

*巻末の広告のはじめに、岩波茂雄の「読書子に寄す 岩波文庫発刊に際して」がある。以下の岩波文庫についても同じ、以下の注記を省略する。

38 増補梅・馬・鶯 芥川龍之介隨筆集 (新潮文庫第十三編)

初版発行 一九二九(昭和四)年五月三日 初版印刷 一九二九(昭和四)年四月二八日

発行所 新潮社

印刷所 富士印刷株式会社

収録作品 「小論文」「私」小説論私見^(ママ)・発句私見(節細目は「梅・馬・鶯」と同じ)・芸術その他・小説の戯曲化・

文部省の仮名遣改定案について・大久保湖州・芭蕉雜記(節細目は「梅・馬・鶯」と同じ) 「小品」葬儀記・

南瓜・沼・東洋の秋・饒舌・着物・悪魔・窓・鏡・下足札・漱石山房の秋・漱石山房の冬・御降り・露・長崎

小品・LOS CAPRICIOS(節細目は「点心」と同じ)・キューピッド・霜夜・新緑の庭・知己料・雪・詩集・

ピアノ・臘梅・沙羅の花・二人の友 「紀行」軍艦金剛航海記・槍ヶ嶽紀行 「観劇記」新富座の「一谷嫩軍

記」・有楽座の「女殺油地獄」・帝劇の露西亞舞踊・市村座の「四谷怪談」・金春会の「隅田川」・寄席・

Gaiety 座の「サロメ」・劇評一束(節細目は「点心」と同じ) 「人物記」樗牛の事・岩野泡鳴氏・豊島与志雄

氏・江口渙氏・近藤浩一路氏・龍村平藏氏の芸術・小杉未醒氏・森先生・恒藤恭氏・久米正雄氏・谷崎潤一郎

氏・佐藤春夫氏・久保田万太郎氏・正岡子規・飯田蛇笏氏・滝田哲太郎氏・島木赤彦氏 「澄江堂雜記」雜筆

(節細目は『点心』と同じ) ・ 京都日記(節細目は『点心』と同じ) ・ 点心(夏雄の事・冥途・長井代助・嘲魔・池西言水・托氏宗教小説・印税・日米関係・Ambrose Pierce・むし) ・ 鑑定・骨董羹(節細目は『点心』と同じ) ・ 本の事(節細目は『点心』と同じ) ・ 支那の画(節細目は『百艸』と同じ) ・ 大正十二年九月一日の大震に際して(節細目は『百艸』と同じ) ・ 澄江堂雜記(大雅の画・にきび・將軍・毛生え薬・芸術至上主義・一切不捨・赤西蠣太・釣名文人・歴史小説・世人・火渡りの行者・俊寛・漢字と仮名と・希臘末期の人・比喻・告白・チャプリン・あそび・塵勞・イバナス・船長・相撲・「とても」・続「とても」・猫・丈艸の事・版数・家・放屁・袈裟と盛遠・後世・「昔」・徳川末期の文芸) ・ 野人生計事(清閑・室生犀星・ピエル・ロティの死・春の日のさした往来をぶらぶら一人歩いてゐる・蒐集・妄問妄答・梅花に対する感情・暗合・コレラ・長崎・東京田端) 「問に答ふ」一つの作が出来上がるまで・一番気乗のする時・短歌雜感・文学好きの家庭から・漢文漢詩の面白味 「書籍批評」「太虚集」読後・「ふゆくさ」読後・「続晋明集」読後・「高麗の花」読後・「女と影」読後 「序跋」「心の王国」の跋・「井月句集」の跋・「一茶句集」の後に・「菊池寛全集」の序・「春の外套」の序・「未翁南甫句集」の序・「蕪村全集」の序・「新作仇討全集」の序 「日録」我鬼窟日録・長崎日録・澄江堂日録 「翻訳」バルタザアル・春の心臓・月光外一章(月光・陶器の亭) 「発句」(七四句) 「短歌」(二五首)。

体裁 B 6判。紙装。定価は一円。

構成 扉Ⅰ、目次(一一四頁)、扉Ⅱ、本文(三一五〇三頁)、奥付、広告(奥付裏面から3頁)。本文8ポイント、パラルビ。

*書名は表表紙が右記の形。扉Ⅰ・Ⅱでは「芥川龍之介隨筆集 梅・馬・鶯(その他)」、奥付では「梅・馬・鶯」。『梅・馬・鶯』初刊本(一一30)の「印譜」を除くすべての文章と、『点心』(一一13)『百艸』(一一23)のほとん

どの文章を収録している。

39 増補黄雀風 (新潮文庫第十五編)

初版発行 一九二九(昭和四)年五月一〇日 初版印刷 一九二九(昭和四)年五月五日

発行所 新潮社 印刷所 富士印刷株式会社

収録作品 一塊の土・おしの・金將軍・不思議な島・雛・文放古・糸女覚え書・子供の病氣・寒さ・あばばば・魚河岸・或恋愛小説・少年・保吉の手帳から・お時儀・文章・六の宮の姫君・藪の中・きりしとほろ上人伝・おぎん・老いたる素戔鳴尊・魔術・二つの宝・庭・トロッコ・母・將軍・葱・MENSURA ZIOLI⁽⁴⁾⁽²⁾・蜜柑・あの頃の自分の事・野呂松人形。計三二編。

体裁 B6判。紙装。定価は一円。

構成 扉I、目次(3頁)、扉II、本文(三一四一六頁)、奥付、広告(奥付裏面から3頁)。本文8ポイント、総ルビ。

*『黄雀風』初刊本(一―22)の全収録作品二六編を並べ、続いて、『芥川龍之介集』(現代小説全集第一巻、一―26)の収録作品のうち、『羅生門』『傀儡師』『夜来の花』(いずれも新潮社刊)に収録されていない作品を順に並べた作品集。

40 佐藤春夫集 芥川龍之介集 (日本探偵小説全集 第二十篇)

初版発行 一九二九(昭和四)年六月二五日 初版印刷 一九二九(昭和四)年六月二一日

発行所 改造社 印刷所 秀英舎

著者 佐藤春夫・芥川龍之介

収録作品 「佐藤春夫集」指紋・「オカアサン」・時計のいたづら・痛ましい発見・女誠扇綺譚・アダム・ルック
 スが遺書・家常茶飯・陳述 「芥川龍之介集」開化の良人・開化の殺人・妙な話・黒衣聖母・影・奇怪な再会。
 合計一四編。

体裁 A 6判。布装、丸背。奥付には定価の記載がない。

構成 扉、口絵（肖像写真）、目次（一―二頁）、佐藤春夫集本文（三―三二〇頁）、芥川龍之介集本文（三―一―
 四五六頁）、奥付。各集のはじめに中扉（ノンブル内）。本文8ポイント、総ルビ。

41 芥川龍之介篇 室生犀星篇 〈明治大正文学全集 第四十五卷〉

初版発行 一九二九（昭和四）年九月二六日 初版印刷 一九二九（昭和四）年九月二三日

発行所 春陽堂 印刷所 新倉東文堂製版・常磐印刷所印刷

著者 芥川龍之介・室生犀星

収録作品 「芥川龍之介篇」鼻・芋粥・煙草と悪魔・偷盜・戯作三昧・地獄変・るしへる・奉教人の死・あの頃の
 自分の事・きりしとほろ上人伝・蜜柑・舞踏会・秋・南京の基督・杜子春・藪の中・將軍・トロツコ・庭・六
 の宮の姫君・おぎん・百合・三つの宝・神神の微笑・白・一塊の土・糸女覚え書・少年・湖南の扇・年末の一
 日・三つのなぜ・春の夜・点鬼簿・彼第二・玄鶴山房・蜃気楼・河童・手紙・三つの窓・或阿呆の一生・西方
 の人・続西方の人・或旧友へ送る手記 「室生犀星篇」幼年時代・地下室と老人・蒼白き巢窟・性に眼覚める
 頃・或る少女の死まで・一冊のバイブル。合計四九編。

体裁 四六判。装丁に二種あり。「上製本」は布装、丸背、函。「裝飾本」は、背革、天金。装丁は恩地孝四郎。予
 約配本のため、奥付に定価の記載はない。一卷あたり、「上製本」一円、「裝飾本」一円五〇銭。

構成 扉、口絵（肖像写真）、目次（一―四頁）、芥川龍之介篇（一―四五六頁）、室生犀星篇（四五七―六三八頁）、「龍氏作品の解説」（室生犀星、六三九―六四六頁）、「年譜と解題」（六四七―六四八頁）、奥付。各篇の冒頭に中扉、裏面は筆跡の影印（ノンブル内）。本文8ポイント、二段組、パラルビ。

*書名は、扉では「明治大正文学全集 第四十五卷 芥川龍之介／室生犀星著」。表紙もほぼ同じ。目次等によって右記のようにした。「龍氏作品の解説」は、芥川の収録作品についての、室生犀星の解説。「年譜と解題」は、犀星の収録作品についての自身の自身による解説と年譜。「芥川龍之介篇」の末尾には、「編輯校訂」として、「岡康雄・西村豊吉・矢橋丈吉・泉斜汀」の名があり、「室生犀星篇」の末尾には、「著者修正」とある。月報を付す。

42 西方の人

初版発行 一九二九（昭和四）年二月二〇日 初版印刷 一九二九（昭和四）年二月一五日

発行所 岩波書店

印刷所 凸版印刷株式会社

収録作品 三つの窓・手紙・冬・古千屋・たね子の憂鬱・十本の針（節細目は省略）・闇中間答・歯車・或阿呆の一生・西方の人・続西方の人。計一一編。

体裁 四六判。紙装、丸背、函。装丁は小穴隆一。定価は二円。

構成 扉I、扉II、目次（「西方の人目録」4頁）、本文（一―二七四頁）、跋文（「西方の人」跋文）佐藤春夫、1（二七五）頁、「西方の人」作品年表（1（二七六）頁）、奥付、広告（奥付裏面から4頁）。本文9ポイント、総ルビ。

43 大導師信輔の半生

初版発行 一九三〇（昭和五）年一月一五日 初版印刷 一九三〇（昭和五）年一月一〇日

発行所 岩波書店

印刷所 凸版印刷株式会社

収録作品 大導寺信輔の半生・第四の夫から・馬の脚・早春・桃太郎・三つのなぜ・点鬼簿・悠悠荘・玄鶴山房・白・河童。計一一編。

体裁 四六判。布装、丸背、函。装丁は小穴隆一。定価は二円。

構成 扉Ⅰ、扉Ⅱ、目次（「大導寺信輔の半生目録」4頁）、本文（一一二七六頁）、跋文（「跋」菊池寛、2（二七七―二七八）頁）、「大導寺信輔の半生」作品年表（1（二七九）頁）、奥付、広告（奥付裏面から4頁）。本文9ポイント、総ルビ。

44 侏儒の言葉（再刊本）

初版発行 一九三〇（昭和五）年二月二三日 初版印刷 一九三〇（昭和五）年二月一日

発行所 文芸春秋社出版部

印刷所 川安印刷所

収録作品 侏儒の言葉・澄江堂雜記・病中雜記・追憶・文芸的な、余りに文芸的な。計五編。『侏儒の言葉』初刊本（一一三三）と同一内容。節細目も同じ。

体裁 B6判小（17・0×11・8cm）。紙装。定価は八〇銭。

構成 扉、序文（「侏儒の言葉」の序）芥川、1頁）、目次（1頁）、本文（一一三三〇頁）、奥付、広告（奥付裏面1頁）。本文五号活字、パラルビ（ルビは非常に少ない）。

*序文は、『侏儒の言葉』初刊本の序文と同じ。

45 十湖南の扇（再刊本）

初版発行 一九三〇（昭和五）年二月

*原本未確認。『著者別書目集覧』（川島五三郎・八木福次郎編、八木書店、一九五九・一）等による。『侏儒の言葉』再刊本（一―44）と同型の再刊本と思われる。

46 文芸的な、余りに文芸的な

初版発行 一九三一（昭和六）年七月五日 初版印刷 一九三一（昭和六）年七月一日

発行所 岩波書店 印刷所 凸版印刷株式会社

収録作品 文芸的な、余りに文芸的な（「話」らしい話のない小説・谷崎潤一郎氏に答ふ・僕・大作家・志賀直哉氏・僕等の散文・詩人たちの散文・詩歌・両大家の作品・厭世主義・半ば忘れられた作家たち・詩的精神・森先生・白柳秀湖氏・「文芸評論」・文学的未開地・夏目先生・メリメエの書簡集・古典・ジャアナリズム・正宗白鳥氏の「ダンテ」・近松門左衛門・模倣・代作の弁護・川柳・詩形・プロレタリア文芸・国木田独歩・再び谷崎潤一郎氏に答ふ・「野性の呼び声」・「西洋の呼び声」・批評時代・新感覺派・解嘲・ヒステリイ・人生の従軍記者・古典・通俗小説・独創・文芸上の極北）・本所両国（「大溝」・両国・「富士見の渡し」・「お竹倉」・「大川端」・「二銭蒸汽」・乗り継ぎ「一銭蒸汽」・柳島・萩寺あたり・「天神様」・錦糸堀・緑町・亀沢町・相生町・回向院・方丈記）・凶・鶴沼雑記・ある鞭、其の他（ある鞭・唾）・晩春売文日記・機関車を見ながら・或旧友へ送る手記・わが家の古玩・小説作法十則・文壇小言・文芸雑談・明治文芸に就いて・今昔物語に就いて・続芭蕉雜記（人・伝記・芭蕉の衣鉢）・「文芸講座」（文芸一般論・文芸鑑賞）。計一六編。

体裁 四六判。紙装、カバー。装丁は小穴隆一。定価は一円。

構成 扉、目次（4頁）、本文（一―二八六頁）、奥付、広告（11頁）。本文9ポイント、パラルビ（ルビは非常に

少ない)。

47 邪宗門 (春陽堂文庫)

初版発行 一九三二(昭和七)年三月一日 初版印刷 一九三二(昭和七)年二月二五日

発行所 春陽堂 印刷所 常磐印刷所

収録作品 邪宗門

体裁 菊半截判。紙装。定価は一〇銭。

構成 扉、本文(一一九四頁)、奥付、広告(奥付裏面1頁)。本文9ポイント、総ルビ。

48 春服 (春陽堂文庫)

初版発行 一九三二(昭和七)年四月一日 初版印刷 一九三二(昭和七)年四月一日

発行所 春陽堂 印刷所 康文社印刷所

収録作品 六の宮の姫君・トロツコ・おぎん・往生絵巻・お富の貞操・三つの宝・庭・神神の微笑・奇遇・藪の中

・母・好色・報恩記・老いたる素戔鳴尊・わが散文詩。計一五編。『春服』初刊本(一一七)と同じ。

体裁 菊半截判。紙装。定価は二五銭。

構成 扉I、扉II、目次(扉II裏面1頁)、本文(三一一二二頁)、奥付、広告(奥付裏面1頁)。本文8ポイント、

総ルビ。

49 侏儒の言葉 (岩波文庫)

初版発行 一九三二(昭和七)年八月一日 初版印刷 一九三二(昭和七)年八月五日

発行所 岩波書店 印刷所 凸版印刷株式会社

収録作品 侏儒の言葉

体裁 菊半裁判。紙装。定価は二〇銭。

構成 扉、本文（三一―三六頁）、奥付、広告（奥付裏面から11頁）。本文9ポイント、パラルビ（ルビは非常に少ない）。

*『侏儒の言葉』初刊本（一―33）の序文（「侏儒の言葉」の序）を本文の冒頭（五頁）に置く。「星」以下、節細目は、初刊本収録の「侏儒の言葉」と同じ。

50 影燈籠（春陽堂文庫）

初版発行 一九三二（昭和七）年九月五日 初版印刷 一九三二（昭和七）年九月一日

発行所 春陽堂

印刷所 日清印刷株式会社

収録作品 蜜柑・沼地・きりしとほろ上人伝・龍・開化の良人・世之助の話・小品四種・あの頃の自分の事・じゅりあの・吉助・疑惑・魔術・葱・翻訳二篇（バルタザアル・春の心臓）。計一三編。

体裁 菊半裁判。紙装。定価は二〇銭。

構成 扉I、扉II、目次（扉II裏面1頁）、本文（二―二〇八頁）、奥付、広告（奥付裏面から3頁）。本文8ポイント、総ルビ。

*収録作品は、『影燈籠』初刊本（一―6）と同じであるが、本文中では、「バルタザアル」と「春の心臓」は「翻訳二篇」として一括されている。また、『影燈籠』初刊本の跋文（「附記」）は収録されていない。

51 蜘蛛の絲（春陽堂少年文庫 第二編）

初版発行 一九三二（昭和七）年一月一七日 初版印刷 一九三二（昭和七）年一月二二日

発行所 春陽堂

印刷所 凸版印刷株式会社本所分工場

収録作品 三つの宝・蜘蛛の絲・杜子春・魔術・犬と笛。計五編。

体裁 菊半裁判。紙装。定価は一五銭。

構成 扉、目次（1頁）、本文（三一一〇頁）、奥付、広告（奥付裏面から3頁）。本文中に挿画10頁（ノンブル内）。本文9ポイント、総ルビ。

52 河童（岩波文庫）

初版発行 一九三三（昭和八）年三月五日 初版印刷 一九三三（昭和八）年三月一日印刷

発行所 岩波書店 印刷所 凸版印刷株式会社

収録作品 河童

体裁 菊半裁判。紙装。定価は二〇銭。

構成 扉、本文（三一一〇六頁）、奥付、広告（奥付裏面から11頁）。本文9ポイント、総ルビ。

53 澄江堂遺珠

初版発行 一九三三（昭和八）年三月二〇日 初版印刷 一九三三（昭和八）年三月一五日

発行所 岩波書店 印刷所 社名なく、印刷者として白井赫太郎。

編者 佐藤春夫

収録作品 芥川の遺した詩稿の未定稿の部分を、佐藤春夫が編集、翻刻し、解説を施したもの。「思ふはとほき人の上」「或る雪の夜」「老を待たんとする心と妬み心と」の三つの部分から成る。

体裁 菊判横長（22・4×17・3cm）。紙装、角背、二方アンカット、函。函および表見返し・裏見返しに、芥川

の詩稿の影印。定価は二円二〇銭。

構成 扉Ⅰ、扉Ⅱ、扉Ⅲ、口絵〔「白衣像」小穴隆一画、芥川肖像〕、序文〔「はしがき」佐藤春夫、11（三一―三三）頁〕、本文（二五―八〇頁）、跋文〔「巻尾に」神代種亮、2（八一―八二）頁〕、「図版目次」（1（八三）頁）、奥付、広告（奥付裏面から5頁）。挿画3葉（ノンブル外）。本文四号活字、パラルビ。

*扉Ⅲには、「芥川龍之介遺著／佐藤春夫纂輯／澄江堂遺珠 *Sois belle, sois triste.*／岩波書店刊」とある。

54 羅生門（新潮文庫）

初版発行 一九三三（昭和八）年四月一〇日 初版印刷 一九三三（昭和八）年四月一日

発行所 新潮社

印刷所 富士印刷株式会社

収録作品 羅生門・鼻・父・猿・孤独地獄・運・手巾・尾形了齋覚え書・虱・酒蟲・貉・忠義・芋粥。計一三編。

『羅生門』縮刷本（一一―18）と同じ。

体裁 菊半裁判。紙装。定価は二〇銭。

構成 扉Ⅰ、扉Ⅱ、目次（扉Ⅱ裏面1頁）、本文（三一―一五九頁）、跋文〔「羅生門の後に」芥川、3（一六〇―一六二）頁〕、奥付、広告（奥付裏面から3頁）。本文8ポイント、パラルビ。

*跋文は『羅生門』初刊本（一一―1）と同じ。献辞はない。収録作品は、縮刷本と同様に「煙管」を欠き、一三作品である。重版の中に、新組の後版があり（確認したものは一九四〇（昭和一五）年九月五日発行の五九版）、頁数が減り、献辞が復活している。

55 傀儡師（新潮文庫）

初版発行 一九三三（昭和八）年五月一五日

初版印刷 一九三三（昭和八）年五月一〇日

発行所 新潮社

印刷所 富士印刷株式会社

収録作品 奉教人の死・るしへる・枯野抄・開化の殺人・蜘蛛の糸・袈裟と盛遠・或日の大石内蔵之助・首が落ち
た話・毛利先生・戯作三昧・地獄変。計一一編。『傀儡師』初刊本（一一四）と同じ。

体裁 菊半裁判。紙装。定価は三〇銭。

構成 扉Ⅰ、扉Ⅱ、目次（扉Ⅱ裏面1頁）、本文（三一―二一六頁）、奥付、広告（奥付裏面から5頁）。本文8ポイン
ト、パラルビ。

* 献辞はない。重版の中で、湯地孝の「解説」（二一七―二二二頁）が加えられている（確認したものは一九三八
（昭和一三）年九月二五日発行の二一版）。また、新組の後版があり（確認したものは一九四一（昭和一六）年五
月八日発行の一四版^マ）、献辞が復活している。

56 湖南の扇（春陽堂文庫）

初版発行 一九三三（昭和八）年五月一日 初版印刷 一九三三（昭和八）年四月二五日

発行所 春陽堂

印刷所 康文社印刷所

収録作品 湖南の扇・温泉だより・浅草公園・誘惑・春の夜・尼提・カルメン・彼・彼第二・僕は・〇君の新秋・
春の夜は・鬼ごっこ・或社会主義者・塵労・年末の一日・海のほとり・蜃気楼。計一八編。『湖南の扇』初刊
本（一一三）と同じ。

体裁 菊半裁判。紙装。定価は二〇銭。

構成 扉Ⅰ、扉Ⅱ、目次（扉Ⅱ裏面1頁）、本文（三一―一四七頁）、奥付、広告（奥付裏面から3頁）。本文8ポ
イント、パラルビ（ルビは少ない）。

57 煙草と悪魔 〈文芸傑作選集〉

初版発行 一九三五（昭和一〇）年二月五日 初版印刷 一九三五（昭和一〇）年一月三〇日
 発行所 荻原星文館 印刷所 社名はなく、印刷者として岩見雄司。

収録作品 奉教人の死・きりしとほろ上人伝・るしへる・おしの・じゅりあの・吉助・尾形良齋^(マツ)覚え書・糸女覚え書・おぎん・煙草と悪魔・さまよへる猶太人・黒衣聖母・報恩記・神々の微笑・邪宗門。計一四編。『報恩記』（歴史物傑作選集第二巻、一―24）と同じ。

体裁 四六判。紙装、丸背、函。定価は一円五〇銭。

構成 扉、序文（「序」編者、一―二頁）、目次（一―二頁）、本文（一―二九〇頁）、奥付、広告（奥付裏面から5頁）。本文9ポイント、ルビなし。

*『報恩記』の紙型を用いて、再構成したもの。序文は、『報恩記』の序文（「歴史物傑作選集に就いて」）と同文で、標題と日付のみ修正したもの。「編者」については未詳。

58 芥川龍之介読本 〈読本現代日本文学 第十二編〉

初版発行 一九三六（昭和一一）年三月一八日 初版印刷 一九三六（昭和一一）年三月一五日
 発行所 三笠書房 印刷所 堀内印刷所

編者 室生犀星

収録作品 羅生門・藪の中・齒車・或阿呆の一生・文芸的な、余りに文芸的な（抄、細目は省略、以下同じ）・続文芸的な、余りに文芸的な（抄）・侏儒の言葉（抄）・西方の人（抄）・続西方の人（抄）・十本の針・発句（俳句五六句）・短歌（二五首）・越びと（旋頭歌二五首）・詩（二二編）・玄鶴山房・秋・トロツコ・蜜柑・沼地・

子供の病氣・お時儀・点鬼簿・芭蕉雜記（節細目は『梅・馬・鶯』と同じ）・続芭蕉雜記（節細目は『文芸的な、余りに文芸的な』と同じ）・人物記（豊島与志雄氏・菊池寛氏・佐藤春夫氏・久米正雄氏・菊池寛氏又・谷崎潤一郎氏・宇野浩二氏・滝田哲太郎氏・夏目先生と滝田さん）・手紙（夏目金之助宛）・小品（漱石山房の秋・漱石山房の冬）・日記（京都日記）。

体裁 四六判。布装、丸背、函。定価は一円五〇銭。

構成 扉Ⅰ、口絵（4葉、肖像写真他）、序文（芥川龍之介読本の巻頭に）扉星、一―六頁）、目次（一―四頁）、扉Ⅱ、本文（一―四九九頁）、奥付。本文中に、以下の扉星の文章がある。「芥川龍之介論」（三―二〇頁）、「羅生門」「藪の中」に就て」（二―一―二二頁）、「歯車」「或阿呆の一生」に就て」（五三―五七頁）、「文芸的な、余りに文芸的な」「侏儒の言葉」「西方の人」「十本の針」に就て」（一五―二―一五五頁）、「発句について」（二四―五―二五三頁）、「短歌に就て」（二六―二頁）、「詩に就て」（二七―二―二八一頁）、「玄鶴山房」「秋」「トロツコ」「密柑」^(ママ)「子供の病氣」「お時儀」「点鬼簿」の諸作について」（二九―六―三〇四頁）、「芭蕉雜記に就て」（四〇―五頁）、「人物記に就て」（四四―三頁）、「芥川龍之介氏を憶ふ」（四八―五―四九六頁）、「芥川龍之介年譜」（四九―七―四九九頁）。本文9ポイント、作品部分総ルビ、解説部分パラルビ。

* 「手紙（夏目金之助宛）」は、一九一六（大正五）年八月二八日のもの。ほとんどの作品の末尾に、初出紙誌や収録書名等の注記が数行ずつある。

59 地獄変

初版発行 一九三六（昭和一一）年四月二五日 初版印刷 一九三六（昭和一一）年四月二〇日
 発行所 野田書房 印刷所 社名はなく、印刷として赤塚三郎。

収録作品 地獄変

体裁 A5判横長(21・1×16・4 cm)。布装、角背、アンカット、帙。題簽は小穴隆一。定価は五円。

構成 口絵(印章「芥川文庫」、扉、本文(五十八八頁)、跋文(無題、無署名、1頁)、奥付。本文12ポイント、パラルビ。

60 夜来の花 (新潮文庫)

初版発行 一九三六(昭和一一)年八月二〇日 初版印刷 一九三六(昭和一一)年八月一五日

発行所 新潮社 印刷所 富士印刷株式会社

収録作品 秋・黒衣聖母・山鳴・杜子春・動物園・捨児・舞踏会・南京の基督・妙な話・鼠小僧次郎吉・影・秋山
 図・アグニの神・女・奇怪な再会。計一五編。『夜来の花』初刊本(一一七)と同じ。

体裁 菊半截判。紙装。定価は三〇銭。

構成 扉、目次(扉裏面1頁)、本文(一一三二九頁)、奥付、広告(奥付裏面から7頁)。本文8ポイント、パラルビ(ルビは少ない)。

*『夜来の花』初刊本の跋文(「附記」)は省略されている。重版の中に、新組の後版があり、湯地孝の「解説」が加えられており、判型もA6判に変わっている(確認したものは一九四二(昭和一七)年一二月一〇日発行の二五版)。

61 黄雀風 (新潮文庫)

初版発行 一九三六(昭和一一)年九月二〇日 初版印刷 一九三六(昭和一一)年九月一五日

発行所 新潮社 印刷所 富士印刷株式会社

収録作品 一塊の土・おしの・金將軍・不思議な島・雛・文放古・糸女覚え書・子供の病氣・寒さ・あばばばば・魚河岸・或恋愛小説・少年・保吉の手帳から・お時儀・文章。計一六編。『黄雀風』初刊本（一一二二）と同じ。体裁 菊半截判。紙装。定価は二五銭。

構成 扉、目次（扉裏面1頁）、本文（一一一八三頁）、跋文（「『黄雀風』の後に。」芥川、1（一八四）頁）、奥付、広告（奥付裏面から7頁）。本文8ポイント、パラルビ（ルビは非常に少ない）。

*跋文は、『黄雀風』初刊本の跋文の前半部分のみで、装丁や校正者について記した後半部分は削除されている。

62 西方の人 続西方の人 他二篇（岩波文庫）

初版発行 一九三七（昭和一二）年二月五日 初版印刷 一九三七（昭和一二）年二月一日印刷

発行所 岩波書店 印刷所 精興社

収録作品 西方の人・続西方の人・十本の針・或旧友へ送る手記。計四編。

体裁 菊半截判。紙装。定価は二〇銭。

構成 扉、目次（1頁）、本文（五一〇二頁）、奥付、広告（奥付裏面から19頁）。本文9ポイント、パラルビ。

63 百艸（新潮文庫）

初版発行 一九三八（昭和一三）年六月一日 初版印刷 一九三八（昭和一三）年六月七日

発行所 新潮社 印刷所 富士印刷株式会社

収録作品 漱石山房の冬・支那の画・長崎小品・仮面・看棧より・澄江堂雜記・日録抄・大正十二年九月一日の大震に際して・解嘲・問者に答ふ・野人生計事・続野人生計事・わが月評。計一三編。『百艸』（感想小品叢書第

八編、一一二三）と同じ。節細目は省略。

体裁 菊半裁判。紙装。定価は三〇銭。

構成 扉、目次（一一五頁）、本文（七一―一九八頁）、「解説」（室生犀星、一九九―二〇〇頁）、奥付、広告（奥付裏面から11頁）。本文8ポイント、パラルビ（ルビは非常に少ない）。

64 煙草と悪魔（新潮文庫）

初版発行 一九三九（昭和一四）年二月二七日 初版印刷 一九三九（昭和一四）年二月二三日

発行所 新潮社 印刷所 富士印刷株式会社

収録作品 煙草と悪魔・野呂松人形・さまよへる猶太人・ひよつとこ・二つの手紙・道祖問答・MENSURA
ZOILI・煙管・片恋。計九編。

体裁 菊半裁判。紙装。定価は二五銭。

構成 扉、序文（「序に代ふ―私と創作―」三一―五頁）、目次（1（七）頁）、本文（九―一一七頁）、奥付、広告（奥付裏面から7頁）。本文8ポイント、パラルビ（ルビは少ない）。

*序文は、『煙草と悪魔』（新進作家叢書第八編、一一―二）と同じ。収録作品は、「或日の大石内蔵之助」「父」を除いた九作品である。

65 支那游記（改造文庫）

初版発行 一九三九（昭和一四）年六月一九日 初版印刷 一九三九（昭和一四）年六月一六日

発行所 改造社 印刷所 両友堂 森島印刷所

収録作品 上海游記・江南游記・長江游記・北京日記抄・雑信一束。計五編。『支那游記』初刊本（一一―27）と同じ。

体裁 菊半裁判。紙装。定価は四〇銭。

構成 扉、献辞（扉裏面）、序文（「自序」芥川、1（三）頁）、目次（五―九頁）、本文（一一―二二六頁）、奥付、
広告（奥付裏面から13頁）。本文8ポイント、総ルビ。

* 献辞・序文は、『支那遊記』初刊本と同じ。

66 三つの宝（改造文庫）

初版発行 一九四一（昭和一六）年二月二三日 初版印刷 一九四一（昭和一六）年二月一〇日

発行所 改造社 印刷所 両友堂 森島印刷所

収録作品 白・蜘蛛の糸・魔術・杜子春・アグニの神・三つの宝。計六編。『三つの宝』初刊本（一―36）と同じ。
体裁 菊半裁判。紙装。定価は四〇銭。

構成 扉Ⅰ、扉Ⅱ、序文（「序に代へて／他界へのハガキ」佐藤春夫、五―七頁）、目次（「三つの宝目録」八一―九
頁）、本文（二一―一五四頁）、跋文Ⅰ（「跋」小穴隆一、一五五―一五七頁）、跋文Ⅱ（「差画について」小穴
隆一、一五九―一六〇頁）、奥付、広告（奥付裏面1頁）。各作品に一葉ずつ、計六葉の挿画（小穴隆一画、初
刊本の絵の縮小写真版、ただし数は半数）がある（ノンブル内）。本文9ポイント、総ルビ。

* 扉Ⅱは、『三つの宝』初刊本の扉の縮小写真版、「旧版扉」とある。序文・跋文Ⅰは、初刊本と同じ。跋文Ⅱのみ、
この本のために書かれたもの。

67 或阿呆の一生

初版発行 一九四二（昭和一七）年四月一〇日 初版印刷 一九四二（昭和一七）年四月一日

発行所 岩波書店 印刷所 精興社

収録作品 大導寺信輔の半生・海のほとり・湖南の扇・年末の一日・春の夜・点鬼簿・悠々荘・彼・彼第二・玄鶴
山房・蜃気楼・河童・冬・手紙・三つの窓・齒車・闇中間答・或阿呆の一生。計一八編。

体裁 四六判小(18・7×13・1cm)。紙装、丸背、函。装丁は小穴隆一。定価は三円。

構成 扉、目次(「或阿呆の一生 目録」4頁)、本文(一―四三三頁)、奥付。本文9ポイント、総ルビ。

*本文末尾に「校正 葛巻義敏」と記載がある。

68 蜘蛛の糸・りんごのお化 〈日本童話名作選集〉

初版発行 一九四二(昭和一七)年六月二日 初版印刷 一九四二(昭和一七)年六月七日

発行所 新潮社 印刷所 富士印刷株式会社

著者 芥川龍之介・佐藤春夫

収録作品 「蜘蛛の糸 芥川龍之介著」白・蜘蛛の糸・魔術・杜子春・三つの宝 「りんごのお化 佐藤春夫著」

一ばん古い記憶・りんごのお化・私の父が狸と格闘をした話・実さんの胡弓・めづらしいお菓子をたべた話・

鸚鵡・めくらのをぢさん・たからもの・小学三年生の頃・秋の運動会・蝗の大旅行・動物園。合計一七編。

体裁 A5判。紙装、丸背、函。装丁は野間仁根。定価は一円八〇銭。

構成 扉、目次(一―四頁)、本文I(「蜘蛛の糸 芥川龍之介著」、一―一〇八頁)、本文II(「りんごのお化 佐藤

春夫著」、一〇九―二三四頁)、跋文(「あとがき」楠山正雄、二二五―二二三頁)、奥付、広告(奥付裏面1

頁)。本文I・本文IIのはじめに中扉(ノンブル内)。本文中に挿画20頁(松野一夫・島田訥郎画、ノンブル

内)。本文12ポイント、パラルビ。

69 芥川龍之介集 〈三代名作全集〉

初版発行 一九四二（昭和一七）年八月二〇日 初版印刷 一九四二（昭和一七）年八月一五日

発行所 河出書房 印刷所 福神印刷

収録作品 酒蟲・芋粥・手巾・忠義・地獄変・奉教人の死・枯野抄・舞踏会・秋・お律と子等と・山嶋・おぎん・
雛・糸女覚え書・寒さ・玄鶴山房・蟹気楼・冬と手紙と・齒車。計一九編。

体裁 B6判。紙装、丸背。定価は二円五〇銭。

構成 扉、目次（一一二頁）、本文（一一三九二頁）、「解説」（芥川比呂志、三九三―三九六頁）、奥付、広告（奥付裏面1頁）。本文9ポイント、パラルビ。

*奥付に、「第十六回配本」とある。一九四三（昭和一八）年五月一〇日発行の四版では、表紙・扉の書名は「芥川竜之介集」。

二 個人全集

1 芥川龍之介全集 全八卷（岩波書店・昭和二年本）

刊行期間 一九二七（昭和二）年一月三〇日―一九二九（昭和四）年二月二八日

発行所 岩波書店 印刷所 凸版印刷株式会社本所分工場

編集同人 小穴隆一・谷崎潤一郎・恒藤恭・室生犀星・宇野浩二・久保田万太郎・久米正雄・小島政二郎・佐藤春夫・佐佐木茂索・菊池寛（広告による）。

収録作品 第一卷―第四卷は小説、第五卷・第六卷は小品・随筆・翻訳・詩歌・評論ほか、第七卷は書簡、第八卷

(表紙・扉・奥付での名称は「別冊」)は未定稿・談話・手帳・補遺ほか。収録作品名は省略する。

体裁 菊判。布装、丸背、天金、函。装丁は小穴隆一。予約配本のため、定価の記載はない。一巻あたり四円。構成 第一巻 扉、口絵(2葉)、目次(「第一巻目録」5頁)、本文(二一六八六頁)、奥付。本文10ポイント、総

ルビ。第二巻以下ほぼ同様の構成。第五巻～第八巻は、本文9ポイント、第八巻はパラルビ。

*各巻に「月報」を付す。以下に、各巻の発行年月日と配本順序、本文頁数を列記する。

第一巻	一九二七(昭和二)年一月三〇日発行	第二回配本	本文六八六頁
第二巻	一九二八(昭和三)年一月三〇日発行	第三回配本	本文六七四頁
第三巻	一九二八(昭和三)年六月二〇日発行	第五回配本	本文七四八頁
第四巻	一九二七(昭和二)年一月三〇日発行	第一回配本	本文七〇八頁
第五巻	一九二八(昭和三)年三月二五日発行	第四回配本	本文七三六頁
第六巻	一九二八(昭和三)年八月二五日発行	第六回配本	本文八五二頁
第七巻	一九二八(昭和三)年一月二二日発行	第七回配本	本文九三〇頁
別冊	一九二九(昭和四)年二月二八日発行	第八回配本	本文九二六頁

2 芥川龍之介全集 全十巻 (岩波書店・昭和九年本)

刊行期間 一九三四(昭和九)年一月一日～一九三五(昭和一〇)年八月一日

発行所 岩波書店 印刷所 精興社印刷所

編集 芥川龍之介全集刊行会

収録作品 第一巻～第五巻は小説、第六巻～第八巻は随筆・評論・小品ほか、第九巻は詩歌・翻訳・未定稿ほか、

第十卷は書簡。収録作品名は省略する。

体裁 四六判。布装、丸背、函。予約配本のため、定価の記載はない。一卷あたり一円五〇銭。

構成 第一卷 扉、口絵（2葉）、目次（「第一巻目録」、5頁）、本文（一―六三〇頁）、奥付。第二巻以下、ほぼ

同様の構成。本文9ポイント、総ルビないしパラルビ。第十巻は、本文8ポイント。

*各巻に「月報」を付す。以下に、各巻の発行年月日と配本順序、本文頁数を列記する。

第一巻	一九三四（昭和九）年一〇月一五日発行	第一回配本	本文六三〇頁
第二巻	一九三五（昭和一〇）年二月五日発行	第四回配本	本文六〇〇頁
第三巻	一九三四（昭和九）年一二月五日発行	第二回配本	本文六一六頁
第四巻	一九三五（昭和一〇）年六月五日発行	第八回配本	本文五九六頁
第五巻	一九三五（昭和一〇）年四月三日発行	第六回配本	本文五九六頁
第六巻	一九三五（昭和一〇）年一月七日発行	第三回配本	本文六四二頁
第七巻	一九三五（昭和一〇）年三月五日発行	第五回配本	本文六四八頁
第八巻	一九三五（昭和一〇）年五月五日発行	第七回配本	本文六三六頁
第九巻	一九三五（昭和一〇）年七月一〇日発行	第九回配本	本文七八二頁
第十巻	一九三五（昭和一〇）年八月一五日発行	第一〇回配本	本文六八〇頁

第十巻には、「芥川龍之介作品目録」（一―四三頁）「普及版芥川龍之介全集総索引」（一―一四頁）を合わせた冊子

（「別冊」）が付されている。

三 編 書

1 新思潮選

初版発行 一九一九（大正八）年七月一五日 初版印刷 一九一九（大正八）年七月一二日

発行所 玄文社 印刷所 大高印刷所

編者 菊池寛・芥川龍之介

収録作品 不思議（小山内薫）・梅龍の話（同）・前科者（谷崎潤一郎）・重罪囚の幼時―その一節―（後藤末雄）・天平の伎楽面（和辻哲郎）・亡き母へ（豊島与志雄）・Baubuchより（山本有三、虱の王・処生の道・運命の緩和・投げ出されし人々）・イマジズムとは何ぞや（山宮允）・蛇と雉（江口渙）・象牙島田（成瀬正二）・一人と独り（同）・二老人（松岡譲）・父の模型（菊池寛）・ゼラール中尉（同）・母（久米正雄）・峡中記（同）・運（芥川龍之介）・猿（同）。計一八編。

体裁 四六判。紙装、丸背。定価は一円六〇銭。

構成 扉、目次（一―四頁）、本文（一―三五三頁）、奥付、広告（奥付裏面1頁）。各著者ごとに中扉（ノンブル内）。本文9ポイント、パラルビ（ルビは非常に少ない）。

*書名は、表紙では「新思潮選」、扉ではその後「千九百十九年版」とある。奥付・目次では、「新思潮傑作集」。

2 † THE MODERN SERIES OF ENGLISH LITERATURE 全八巻

*初版未確認。第六巻『MORE MODERN SHORT STORIES』の一九二九（昭和四）年四月一〇日発行の第三版のみ確認。以下に、この本によってこの巻の書誌的な概要を記し、この本の巻末の広告に掲げられている全巻

の内容を記す。

MORE MODERN SHORT STORIES <THE MODERN SERIES OF ENGLISH LITERATURE VOL. VI>

初版発行 一九二四(大正一三)年七月一四日 初版印刷 一九二四(大正一三)年七月一日

発行所 興文社 印刷所 発行兼印刷者として興文社

編者 芥川龍之介

収録作品 他の巻とまとめて左記する。

体裁 四六判小(18・7×12・7cm)。紙装。表紙装丁は、『The Yellow Book』第一巻(一八九四・四)の表紙デザイン(ピアズリー画)による。定価は第三版では九〇銭。

構成 扉、序文Ⅰ(「序」芥川、1頁)、序文Ⅱ(「第六巻の序」芥川、1頁)、目次(1頁)、本文(一一一七五頁)、「NOTES」(一一一三頁)、奥付、広告(奥付裏面から2頁)。

* 広告の全文。

THE MODERN SERIES OF ENGLISH LITERATURE. / FOR HIGHER SCHOOLS. (WITH INTRODUCTION) EDITED BY R. AKUTAGAWA

VOL. I. MODERN FAIRY TALES.....Yen .90

1. Selfish Giant—Oscar Wilde.
2. Happy Prince—Oscar Wilde.
3. The Highwaymen—Lord Dunsany.
4. The True History of the Hare and the Tortoise—Lord Dunsany.
5. Beswarragal—Lady Gregory.
6. Shawneen—Lady Gregory.
7. The White Seal—Rudyard Kipling.
8. 'Rikki-Tikki-Tavi'—Rudyard

Kipling.

Vol. II. MODERN SHORT STORIES..... 90

1. The Imp of the Perverse—Edgar Allan Poe. 2. Markheim—R.L. Stevenson. 3. The Phantom 'Rickshaw'—Rudyard Kipling. 4. A Poor Gentleman—G. Gissing. 5. To Please His Wife—T. Hardy.

Vol. III. MODERN GHOST STORIES..... 90

1. The Moonlit Road—Ambrose Bierce. 2. The Terror of the Twins—A. Blackwood. 3. The Ash-Tree Rhodes James. 4. The Flowering of the Strange Orchid—H. G. Wells. 5. The Rival Ghosts—Brander Matthews.

Vol. IV. MODERN SHORT PLAYS..... 90

1. The Dark Lady of the Sonnets—Bernard Shaw. 2. The Lost Silk Hat—Lord Dunsany. 3. The First and the Last—John Galsworthy. 4. The Critics—John G. Ervine.

Vol. V. MODERN ESSAYS..... 90

1. Christmas — G.K.Chesterton. 2. Mr.Shakespeare Disorderly — A.B.Walkley. 3. The Movies — A.B.Walkley. 4. Coterie Criticism — A.B.Walkley. 5. Darwin Among the Machines — Samuel Butler. 6. 'How Shall I Word it?' — Max Beerbohm. 7. William & Mary — Max Beerbohm. 8. The Barber — Arnold Bennett. 9. Darwinism & Vitalism — Bernard Shaw. 10. Some Privations of the Coming Man — Ambrose Bierce.

Vol. VI. MORE MODERN SHORT STORIES..... 90

1. The Apple — H.G.Wells. 2. Roads of Destiny — O.Henry. 3. The Elixir of Youth — Arnold Bennett.

4. The Invisible Man—G.K.Chesterton. 5. A.V.Laider—Max Beerbohm.

Vol.VII. MORE MODERN GHOST STORIES..... 90

1 The Upper Berth—M.Crawford. 2. A Diagnosis of Death—Ambrose Bierce. 3. The Man Who Went Too Far—E.Benson. 4. Miss Slumbubble—and Claws⁽⁴⁷⁾trophobia—Algernon Blackwood. 5. The Interval—Vincent O'Sullivan. 6. The White Battalion—F.G.Wood.

Vol.VIII. MODERN MAGAZINE STORIES..... 90

1. Where Was Wych Street?—Stacy Aumonier. 2. In the Metropolis—Benjamin Rosenblatt. 3. The Last Lap—E.M.Goodman. 4. The Reaper—Dorothy Eastern.⁽⁴⁷⁾ 5. The Price of the Head—John Russell. 6. Extra Men—Harrison Rhodes. 7. The Woman Who Sat Still—Parry Truscott. 8. A Simple Act of Piety—Achmed Abdullah.

PUBLISHED BY KOBUNSHA, LTD., TOKYO

*序文Iで、芥川は、学生の興味を増すために、「新らしい英米の文芸」を選んで叢書としたことを記し、教科書中に「多少の新を加へる」ことが必要だと述べている。序文IIは、その巻に収録された作家・作品についてのごく簡単な紹介であり、それぞれの巻で異なるもの。巻末の「NOTES」は、芥川の付した語句の注解、英文。なお、大村喜吉他編『英語教育史資料 第三巻』（東京法令出版株式会社、一九八〇・四）に、この本についての解説があり、全巻の細目が記されている。

3 近代日本文芸読本 全五集

初版発行 一九二五（大正一四）年一月八日 初版印刷 一九二五（大正一四）年一月五日

発行所 興文社

印刷所 発行兼印刷者として興文社

編者 芥川龍之介

- 収録作品 **第一集** 最もよき夕（佐藤春夫）・千住の市場（吉田絃二郎）・椰子の実（島崎藤村）・朝の散歩（谷崎精二）・仏陀と孫悟空（武者小路実篤）・「己が名を」其の他（石川啄木）・飼犬（野上弥生子）・夕の星（土井晩翠）・笛を合はす人（室生犀星）・「牙え返る」其の他（小沢碧童）・雀の巣（真山青果）・薬草の花（加藤武雄）・植ゑ忘れた百合の赤芽（岩野泡鳴）・非凡なる凡人（国木田独步）・雪女（秋田雨雀）・「愛しげに」其の他（窪田空穂）・競漕（久米正雄）・父の記憶（宇野浩二）・新体詩見本（斎藤緑雨）・入鹿の父（岡本綺堂）・郊外小景（近松秋江）・「遣羽子や」其の他（高浜虚子）・トロッコ（芥川龍之介）・嗚呼広丙号（山田美妙）・曙（千家元麿）・練馬の一夜（大町桂月）・植物園小品（北原白秋）・「青麦の」其の他（尾上柴舟）・平凡（二葉亭四迷）・大判半裁紙―ストリントベルグー（小山内薫）・遠き薔薇序詩（堀口大学）・向島（坂本四方太）・老曹長―デトレフ・フォン・リリエンクロオン―（森鷗外）。計三三編。
- 第二集** 出世（菊池寛）・感激（徳富蘇峯）・「槽として」其の他（土岐善麿）・ベテスタの池（小山内薫）・小泉先生（厨川白村）・「麦畑や」其の他（正岡子規）・トラピスト（島崎藤村）・片瀬の回顧（広津柳浪）・障子（野口米次郎）・漁場より（長田幹彦）・「山ざくら」其の他（与謝野晶子）・春（藤森成吉）・「のうれんの」其の他（松瀬青々）・布施太子の入山（倉田百三）・つれづれに（室生犀星）・四日間―ガルスィン―（二葉亭四迷）・小僧（岩野泡鳴）・「緋緘の」其の他（落合直文）・ふところ日記（川上眉山）・小さき者へ（有島武郎）・興福寺の写真（高浜虚子）・匂ひと響き（佐藤惣之助）・塹壕の内（長田秀雄）・「悲しみて」其の他（吉井勇）・輪廻（森田草平）・テムペストーシェークスピア―（坪内逍遙）・「声ひそ

め」其の他（土屋文明）・現代の欧羅巴と日本と我々と（生田長江）・「山鳥」其の他（夏目漱石）。計二九編。

第三集 日本の庭（永井荷風）・両国（木下杢太郎）・地震（中村吉蔵）・「鐘して」其の他（村上鬼城）

・林野巡査の一日（中村星湖）・胸の上の孔雀（西条八十）・「空腹高心」其の他（高山樗牛）・不思議（小山内薫）・「のびあがり」其の他（木下利玄）・祖母（加能作次郎）・「上野山」其の他（正岡子規）・小鳥の巢（鈴木三重吉）・騷擾（萩原朔太郎）・U君とエス（広津和郎）・屋上の狂人（菊池寛）・「すずめ子の」其の他（若山牧水）・初対面（徳富健次郎）・霧（豊島与志雄）・欣求（川路柳虹）・病日（小川未明）・「傾きし」其の他（萩原井泉水）・握手（久保田万太郎）・人類愛について（武者小路実篤）・地藏教由来（久米正雄）・ルキ・フィリップ王の出奔（ヴィクトル・ユーゴー）（森田思軒）・「鬱蒼と」其の他（北原白秋）・精神の自由（北村透谷）・兄弟（谷崎潤一郎）・幽趣微韻（上田敏）。計二九編。

第四集 国貞彖かく（泉鏡花）・鍼の如く（長塚節）・人生の熱愛者（安倍能成）・ゴンドラの一夜（有島

生馬）・落葉（ポオル・エルレエヌ）（上田敏）・海彦山彦（山本有三）・現代喜劇の経過（島村抱月）・「春月や」其の他（大須賀乙字）・馬糞石（葛西善蔵）・公園の薄暮（北原白秋）・項羽と劉邦（長与善郎）・「手をとりて」其の他（中村憲吉）・紫の血（上司小剣）・「春山や」其の他（河東碧梧桐）・日本は何を誇るか（和辻哲郎）・雨にうたるるカテドラル（高村光太郎）・桐一葉（坪内逍遙）・「おのづから」其の他（古泉千樫）・泰西人の見たる葛飾北斎（永井荷風）・二人女房（尾崎紅葉）・炎（日夏耿之介）・死（田山花袋）・切支丹迫害（内田魯庵）・「青竹の」其の他（前田夕暮）・与太郎料理（饗庭篁村）・囊の女（吉井勇）・高瀬舟（森鷗外）。計二七編。

第五集 城崎にて(志賀直哉)・「木蓮は」其の他(松根東洋城)・陰影(久保田万太郎)・逝く子(島木赤彦)・能楽に就いて(小宮豊隆)・ひとしづく(蒲原有明)・入江のほとり(正宗白鳥)・「狂人の」其の他(斎藤茂吉)・思想と実行(阿部次郎)・昼―祭の日―(水上瀧太郎)・「大風の」其の他(内藤鳴雪)・誕生(谷崎潤一郎)・帆綱(三木羅風)・みづの上(樋口一葉)・「天地の」其の他(伊藤左千夫)・土(長塚節)・ああ大和にしあらましかば(薄田泣菫)・不幸な偶然(里見弴)・「ためらはず」其の他(与謝野寛)・仮面(森鷗外)・彼が三十の時(武者小路実篤)・「萍涼しく」其の他(中塚一碧楼)・二日物語(幸田露伴)・金剛杵(斎藤緑雨)・「女の童」其の他(佐佐木信綱)・絵踏(木下杳太郎)・歌よみに与ふる書(正岡子規)・なみだ(佐藤春夫)・感傷的事(徳田秋声)・スキフトと厭世文学(夏目漱石)。計三〇編。

体裁 菊判縦短(20・2×15・1cm、広告では「式紙判」)。紙装背布、丸背、カバー。定価各一円七〇銭。

構成 第一集 扉、序文Ⅰ(「近代日本文芸読本」縁起)芥川、一―二頁)、序文Ⅱ(「近代日本文芸読本」の序)芥川、三―五頁)、凡例(「近代日本文芸読本」の凡例)、七―八頁)、序文Ⅲ(「第一集の序」芥川、1(九)頁)、目次(「第一集目次」、一―六頁)、本文(一―二九四頁)、「近代日本文芸読本 第一集 附録」(一―三頁)、奥付。本文五号活字、パラルビ。

第二集以下も同様。本文頁数は、第二集二九四頁、第三集二九六頁、第四集二九二頁、第五集三〇六頁。

*序文Ⅰに、「明治大正の諸作家の作品を集めた副読本用の選集」を意図して編集されたという記述がある。全五集の同時刊行。凡例に、「作品は大体中学の一学年から五学年に至る学生諸君の読書力に準じて配列したものとある。また、校正は神代種亮によることが記されている。各集の「附録」は、その集に収録された作家の氏名・生年・没年・生地・著書訳書を表形式で紹介したものである。

4 小学生全集

* 「初級用」「上級用」を含めて全八八冊刊行された叢書。各巻の編成は、紅野敏郎編「叢書・文学全集・合著集総覧」(『日本近代文学大事典』第六巻、講談社、一九七八・三)に記されている。第一回配本の『小公子』(第五六巻、菊池寛訳、一九二七・五・二五)では、扉の裏面に、「編輯者 菊池寛 芥川龍之介」の記載があるが、後の巻ではこの記載はなくなっている。叢書中に、「菊池寛・芥川龍之介共訳」とされているものが二冊あり、ここでは、それについてのみ見ておく。

アリス物語 〈小学生全集 第二十八巻〉

初版発行 一九二七(昭和二)年一月一日 初版印刷 一九二七(昭和二)年一月一日

発行所 興文社・文芸春秋社

印刷所 有恒社

奥付には編輯兼発行者として石川寅吉、扉に「菊池寛／芥川龍之介共訳」とある。

収録作品 アリス物語(ルイス・キャロル)

体裁 菊判。紙装。この巻の装丁は平沢文吉。定価は奥付には記載がない。予約配本制、一冊三五銭。

構成 扉、口絵(海野精光画)、顕彰文(「天皇陛下皇后陛下天覧台覧の光栄を賜はる……」1頁)、序文(「はしがき」菊池寛、1頁)、目次(2頁)、装丁者名(1頁)、本文(七一―二五四頁)、奥付、後記(「愛読者の皆さまへ」「次回配本」、奥付裏面1頁)、跋文(無題、菊池、1頁)。本文中に挿画・カット多数(ノンブル内)。本文四号活字、総ルビ。

* 跋文は他の巻にはない。その文中で、菊池は、作品の紹介をした後に、「この「アリス物語」と「ピーターパン」とは、芥川龍之介氏の担任のもので、生前多少手をつけてくれたものを、僕が後を引き受けて、完成したもの

です。故人の記念のため、これと「ピーターパン」とは共訳と云ふことにして置きました」と記している。

ピーターパン 〈小学生全集 第三十四巻〉

初版発行 一九二九（昭和四）年四月一日 初版印刷 一九二九（昭和四）年三月二九日

発行所 興文社・文芸春秋社 印刷所 有恒社

奥付には編輯兼発行者として石川寅吉、扉に「菊池寛・芥川龍之介共訳」とある。

収録作品 ピーターパン（J・M・バリー）

体裁 菊判。紙装。この巻の装丁は加藤まささを。定価は奥付には記載がない。予約配本制、一冊三五銭。

構成 扉、口絵（加藤まささを画）、顕彰文（「天皇陛下皇后陛下天覧台覧の光栄を賜はる……」1頁）、目次（2頁）、

装丁者名等（1頁）、本文（一一二八二頁）、奥付、広告（奥付裏面1頁）。挿画・カット多数（ノンブル内）。

本文9ポイント、総ルビ。

*

*

*

補 説

以上の書目の作成の中で知られた、芥川の本の特徴について、また、そこからうかがわれる芥川の文学の特徴について、いくつか付言しておきたい。

1 叢書の多さ

大正期の芥川の著書を見ていくと、何らかの叢書の一冊として刊行された本の多いことに、まず気がつく。当時、新進作家の登竜門として刊行されていた代表的な二つの叢書、「新進作家叢書」（新潮社）と「新興文芸叢書」（春

陽堂)において、芥川は、前者からは『煙草と悪魔』(一―二)、後者からは『鼻』(一―三)を相次いで出版している。より中堅のクラスの作家を集めた「代表的名作選集」(新潮社)においても、やや遅れて、『將軍』(一―12)を出版している。大正期は、文芸書において、全巻数の比較的少ない、また一巻の容量の比較的小さい叢書が、数多く刊行された時代である。小説の叢書だけでなく、随筆類の叢書も出版されていることが、叢書の多さの一端を示しているが、芥川の場合、「随筆感想叢書」(金星堂)から『点心』(一―13)が、「感想小品叢書」(新潮社)から『百艸』(一―23)が刊行されている。こうした大正期の叢書の多さは、昭和初期になると「円本」の流行に変わる。一冊一円での、十萬部単位の出版物が輩出し、次には文庫本の隆盛の時代が来るが、芥川の作品もその時代の波に乗っていくことになる。

2 関東大震災の影響

大正期と昭和初期との間に関東大震災という事件があり、その被災によって、多くの出版社が打撃を受けた。通常、文芸書などの印刷においては、初版刊行の際に組まれた活字組版から紙型を取り、それを保管して、重版の際には紙型から鉛版を作って印刷する。震災によって、出来上がった本だけでなく、その紙型の多くが焼失し、重版を出すためには、再び活字組版から始めなければならなくなった。夏目漱石の著書の場合、春陽堂の被害が大きかったために、過半数がこの紙型焼失を経験している。多くの漱石の縮刷本が、震災を境に、新しい組版に基づく後版に変わっていく。⁽¹⁾しかし、芥川の本は、震災の影響を受けたものが比較的少ない。芥川の本の場合、被害の少なかった新潮社から出されていたものが多く、それらは焼失を免れた。

俺の本も春陽堂や改造のはみんな焼けてしまったおかげ様でサバサバした「羅生門」「傀儡師」の類は未だに罪障消滅せず本屋の店に残つてゐる

(一九二四年三月二五日、斎藤貞吉宛書簡)

「羅生門」「傀儡師」は、新潮社刊の縮刷本（一―18、19）を指す。春陽堂の本では、大正十二年五月に初刊本が出された『春服』（一―17）が、翌年に縮刷本（一―20）として再刊されていることも、この震災による紙型の焼失のためと推測される。縮刷本の序文（「普及版「春服」の前に。」）で、芥川は、「春服」の普及版は震災の為に、予定よりも発売を早めることにした」と述べている。春陽堂の「ヴェストポケット傑作叢書」の四冊は、震災後に、二冊（『戯作三昧他六篇』一―8、『芋粥他六篇』一―11）が、新組の後版として春陽堂から刊行されているが、他の二冊（『地獄変他六篇』一―9、『或る日の大石内蔵之助他五篇』一―10）は、文芸春秋社出版部から再刊本（一―28、29）として出版されている。この本の巻末の広告において、文芸春秋社出版部は、『戯作三昧』『芋粥』を含めた四冊の「袖珍」本の広告を出している。当初は、文芸春秋社出版部は、四冊とも自社から再刊しようとしていたと考えられ、出版権をめぐって、春陽堂との間に行き違いがあったものと思われる。

3 印刷技術の向上

明治期の本に比べると、大正期の本では印刷技術が向上している。誤植は、明治期の本と比較して少なくなり、校正の技術の向上が認められる。また、これも比較的にはあるが、重版を重ねても版面が乱れにくくなり、紙型技術の向上が認められる。この印刷技術の向上は、昭和初期にさらに飛躍的に進む。

芥川は、多くの本の校正を神代種亮に依頼しているが、序文でそのことに言及したり、目次の後に校正者として名を記している本が少なくない。神代を含めて、校正者名を明記している本は、『沙羅の花』（一―14）『黄雀風』初刊本（一―22）『影燈籠』縮刷本（一―25）『支那遊記』（一―27）『芥川龍之介篇 室生犀星篇』（明治大正文学全集第四十五巻、一―41）『或阿呆の一生』（一―67）『近代日本文芸読本』（二―3）などであるが、そのように校正者名を明記することも、印刷技術の向上を反映しているといえる。

4 収録作品の重複

芥川の作品は、さまざまの組合せで編集し直して出版されたため、一つの作品が多くの本に収録されている。やや極端な例ではあるが、「奉教人の死」の収録された本を次に挙げてみよう。

- ①『傀儡師』初刊本（一九一九・一） ②『戯作三昧他六篇』（ヴェストポケット傑作叢書3、一九二二・九）
 ③『沙羅の花』（一九二二・八） ④『傀儡師』縮刷本（一九二三・六） ⑤『報恩記』（歴史物傑作選集2、一九二四・一〇） ⑥『芥川龍之介集』（現代小説全集1、一九二五・四） ⑦『芥川龍之介集』（一九二七・九） ⑧『芥川龍之介集』（現代日本文学全集30、一九二八・一） ⑨『芥川龍之介篇 室生犀星篇』（明治大正文学全集45、一九二九・九） ⑩『傀儡師』新潮文庫本（一九三三・五） ⑪『煙草と悪魔』（文芸傑作選集、一九三五・一二） ⑫『芥川龍之介集』（三代名作全集、一九四二・八）。

初出（『三田文学』一九一八（大正七）年九月）以降、ほとんど毎年のように、「奉教人の死」は新しい本に入っ出版されているのであり、さらに、個人全集の二本を加えることができる。このような状況は現代の流行作家にも見当たらないだろう。

このことを、作品の問題として見れば、対校すべき本文の多さに驚かされる。少なくとも①から⑥までの本文には、作者の訂正が行われている可能性がある。実際、芥川においては、初刊本に収録する時だけではなく、選集に収録する際や、縮刷本として再刊する際にも、少しずつ手を入れている場合がある。⁽²⁾

また、このことを本の問題として見れば、それだけさまざまな編集の本が作られたということが注目される。右の十二点の中で、①④⑩は同書名同内容の再刊であり、⑤⑪も同内容であるが、他はそれぞれに別の編集である。一つの作品は、いろいろな組合せ方の本に入れ直される。こうした出版のあり方は、芥川が短編小説作家であるこ

とにおいて可能になってくるのではあるが、後述するように、芥川自身、この編集という行為に強い興味を持っていたことが指摘できる。

5 晩年の作品の収録

右の本の中で、新潮社刊の⑦『芥川龍之介集』（一―32）や、改造社刊の⑧『芥川龍之介集』（現代日本文学全集30、一―35）は、作品については全集に匹敵するボリュームがある。「現代日本文学全集」においては、当初、芥川の作品と久米正雄の作品とを合わせて一巻とする予定であったが、芥川の自殺直後の関心の高まりを受けて、芥川だけで一巻を編むことになる。この本に付された「月報」の「編輯室より」には、次のような文章がある。

「芥川龍之介集」の独立について多数会員諸氏の御要求を貫徹するため、氏の歿後幾旬に亘りて芥川家に交渉し、その承認を得て茲に燦然たる内容となし会員諸兄弟へ御配附することの出来た喜びを喜びたい。（中略）六十篇の小説の代表作が這入つた。此素破らしい内容を盛るために本社がどれ程苦心したかを幾重にも承知してもらひたい。⁽³⁾

中でも、「西方の人」「続西方の人」は、初出（『改造』一九二七・八、同・九）以後、この本に初めて収録された作品である。このようなボリュームでの刊行は、芥川の遺言に従って、全集を編集しようとしていた岩波書店にとっては痛手となってくる。小林勇は、『惜櫟荘主人―一つの岩波茂雄伝―⁽⁴⁾』において、このような改造社の動向や、「遺言で全集刊行の契約を破棄された」新潮社が『芥川龍之介集』を編んで大々的に広告したことには「ただつ岩波茂雄の姿を描いている。」

昭和二年本の『芥川龍之介全集』（二―1）は、昭和二年十一月に第一回配本として第四巻を刊行する。この巻は晩年の小説を集めた巻であり、「寒さ」「文章」「少年」などの『黄雀風』（一―22）収録の作品、「年末の一日」

「蜃気楼」などの『湖南の扇』（二―31）収録の作品とともに、「点鬼簿」「玄鶴山房」「河童」「齒車」「或阿呆の一生」などの晩年の作品を数多く収録しているが、これら晩年の作品は、初出以後、初めてこの本に収録されたものである。次いで『芥川龍之介集』（現代日本文学全集30）が、わずかに遅れて、昭和三年一月に、これらの作品をも収録して刊行されることになる。⁽⁵⁾ 芥川の編集した小説集は『湖南の扇』までであり、彼の自殺によって世間の関心を集めた晩年の作品は、これらの本によってまず流布していくことになる。昭和二年本の全集の第四巻は、その意味では、初刊本のような性格を持っていたといえる。そして、後に、『西方の人』（一―42）『大導寺信輔の半生』（一―43）『文芸的な、余りに文芸的な』（一―46）『或阿呆の一生』（一―67）などの作品集が出され、晩年の作品は、それらの本に重複して収録されていくことになる。

作品の側から見れば、「大導寺信輔の半生」や「点鬼簿」や「玄鶴山房」は、『湖南の扇』に収録できる時期の作品でありながら、なぜ収録されなかったのか、その理由が問われるべきだろう。「河童」が収録されなかったことについては、作品の長さという量的な問題も考えうるが、三作品にはその理由はあてはまらない。なぜ芥川は、これらの作品をはずして、「蜃気楼」や、「浅草公園」「誘惑」や、また「春の夜」「尼提」「カルメン」などの大して重要とも思われない作品を採ったのだろうか。作品集のあり方の一つ一つが、問いを含んでいるのである。

6 編集意識

俳句の場合、芥川の生涯に作った俳句の総数は、村山古郷編『芥川龍之介句集 我鬼全句』⁽⁶⁾によれば千句前後である。芥川は、その中から七十四句を選んで、「発句」として『梅・馬・鶯』（一―30）に収録する。その本文の末尾に「計七十四句。大正六年より大正十五年に至る。」と記されており、それまでの自作のベスト・セレクションであるという意識が明らかである。『澄江堂句集 印譜附』（一―34）に収められた七十七句は、それに三句を加え

たものであるが、芥川文の回想によれば、芥川は大正十五年の夏に、選んでいたその七十七句を渡辺庫輔に清書させておいたという。⁽⁷⁾ こうしたことは、芥川の推敲癖とか、修辭へのこだわりとして説明されることが多いが、それ以上に、編集意識の強さに注目すべきであろう。九割以上の句を捨てるという行為は、推敲癖や修辭へのこだわりからは生まれなだらう。この厳選した句だけをまとめておくという行為の中に、創作意欲とは別の、編集意欲とでもいべきものが現れているように思われる。

芥川は、一つ一つの作品を作ることには努めただけではなく、自分の作った作品を編集し、納得できるものだけを最上の形でまとめた作品集を作ることにも努めていたと考えられる。

短歌についても、俳句と同様の厳選と編集がなされている。また、詩については、編集しきれなかったものが未定稿として残り、佐藤春夫の編集による『澄江堂遺珠』(一一—53)において、その解説が試みられている。

小説や随筆等についても、芥川の編集意識を重視する必要があるだろう。『沙羅の花』(一一—14)と『梅・馬・鶯』の序文の一部を引用する。

これは大正五年から大正十一年に至る間の、わたしの作品の選集である。選の標準は必しも、作品の佳否にのみを拠つたのではない。一卷の中に出来る限り、種々の企図のもとに書かれた作品を集めたいと思つたのである。

(『沙羅の花』「自序」)

「梅・馬・鶯」は僕の書いた短篇以外のものを集めた本である。尤も「点心」や「百艸」の中から抜いて来たものも少くはない。それは短篇以外のものをざつと一冊に纏めたかつた僕の心もちに同情して大目に見て頂きたいと思つてゐる。

(『梅・馬・鶯』「小序」)

『梅・馬・鶯』の収録作品は、『点心』や『百艸』と重複するものが多い。しかし、芥川は、作品の少なさとい

う実際の制限から、しかたなく重複に甘んじていたというわけではなく、むしろ、別の組合せ方の本を作ることを楽しんでいたと感ぜられる。一つ一つの作品を独立した作品と見るだけでなく、そのいくつかを集めて編集した作品集もまた、芥川の一つの作品として見る必要がある。

7 短文作家

随筆について見ていくとき、特に「澄江堂雜記」は、さまざまの内容と組合せの呼び名として使われていることに気がつく。「澄江堂雜記」は、作品の名ではなく、ジャンルの名として、つまり芥川の短い随筆的な文章の総称として捉えておく方が安全だろう。「澄江堂雜記」の一節一節こそが一つ一つの作品であり、その短い作品を集めて普通の作品のような長さにするために「澄江堂雜記」という名が必要だったともいえる。

「骨董羹」「雜筆」「点心」「芭蕉雜記」「野人生計事」「侏儒の言葉」、さらには「追憶」「文芸的な」「本所両国」「西方の人」「十本の針」など、芥川において、この系統の作品群は大きな質量を持っている。あるいは、芥川の文章の本領は、作品と呼ぶには短すぎる文章にあったのかもしれない。それを生かすために、編集意識が必要とされたとも考えられる。「或阿呆の一生」などは、まさにそのような形態の作品といえるのではないか。

室生犀星は、『百艸』新潮文庫本（一―63）の「解説」で次のように述べている。

……きれぎれな文章にも作者はそれをおろそかにしないで心を打ち込んで書いてゐる。

いま芥川君のやうな随筆をかく作家は一人もゐない、（中略）詩人でありながら詩を文のあひだに費ひ果したこの作家の行文は、あるときは花の匂ひさへただよはしてゐるのである。

この作家は随筆をかくときには小説よりも楽しんで書いてゐたやうに思はれる、……楽しむといふよりも何

か心にゆとりを見せて書いてゐる。小説はあまりに苦作呻吟した人であつた。

8 編書

もう一つ、編集集という行為への芥川の興味と熱意を感じさせるものとして、二つの編書の存在がある。『THE MODERN SERIES OF ENGLISH LITERATURE』全八巻(三一・二)は、芥川の文学的な素地の一つを形作っていた西洋文学のうちの、英米文学についての理解を見る上で重要な資料である。それぞれの巻の作家と作品を紹介する序文は短いが、収録作品と合わせて考えることで、芥川を理解の様相をうかがい知ることができるだろう。『近代日本文芸読本』全五集(三一・三)については、明治以来の文学に対する、芥川を理解を知る資料として、点検していく必要がある。犀星は、『芥川龍之介読本』(読本現代日本文学12、一―58)の序文(「芥川龍之介読本の巻頭に」)において、芥川がこの編書の編集に心血を注いでいたことを証言している。

芥川君も、興文社から文学読本の編纂を嘱されて、永い間、その仕事にたづさはつてゐたが、詩人俳人小説家といふふうには各作家の代表的作品を集編するために、殆、一作家の著書を手にはいるだけ集めて、こくめいな儼選を敢て行つてゐた。詩人の作品を掲げるためにも、私に何度もその詩人の代表的作品を質問して参考にしてゐた位である。そして芥川君が僅か一篇の詩を採り入れるために、永い間かかつてその詩人の全作品から選ぶ方針を取つてゐたことが、当時、その艱難な仕事に敬愛の情を以つて私は眺めてゐた程であつた。

これらの編書の存在は、芥川の編集意識という問題から見て興味深く、また、芥川の文学的な基盤や標準を知る上で恰好の材料であると考えられる。

また、芥川が「参訂」として名を連ねている『鏡花全集』⁽⁸⁾や、文芸春秋社から刊行された『文芸講座』(全十四冊、一九二四・九―一九二五・五)については、この書目では触れなかったが、こうした出版事業、より広くいえ

ば文化事業への参画についても、調査すべき問題があると思われる。

注

- (1) 清水康次編『漱石単行本書誌・粗稿』、私家版、一九九二・三
- (2) 森本修・清水康次編『芥川龍之介集 第二卷』(近代文学初出復刻5、和泉書院、一九八七・一〇)の「校異」参照。
- (3) 「改造社文学月報」第十四号、一九二八(昭和三)年一月九日発行。青山毅編『改造社文学月報』(昭和期文学・思想文献資料集成 第五輯、五月書房、一九九〇・六)による。
- (4) 小林勇『惜櫟莊主人―一つの岩波茂雄伝―』、岩波書店、一九六三・三
- (5) 「大導師信輔の半生」や「三つの窓」「闇中間答」なども、昭和二年本の全集の第四巻が初出以後初めての収録であるが、これらは、『芥川龍之介集』(現代日本文学全集30)には収録されていない。また、「西方の人」「続西方の人」は、全集では第六巻(一九二八・八)に収録されており、『芥川龍之介集』(現代日本文学全集30)の方が少し早い。
- (6) 村山古郷編『芥川龍之介句集 我鬼全句』永田書房、一九七六・三
- (7) 芥川文述・中野妙子記『追想芥川龍之介』筑摩書房、一九七五・二
- (8) 『鏡花全集』全二五巻、春陽堂、一九二五・七―一九二七・七。「鏡花全集の特色」において、編集は鏡花自身があったり、「参訂」として、小山内薫・谷崎潤一郎・里見淳・水上瀧太郎・久保田万太郎・芥川龍之介が加わったと記されている。

なお、本稿は、平成八年度、国内研修を許可され、一年間の天理大学での研修を行えたことの成果の一つである。天理大学・光華女子大学、および、天理大学において指導をお願いした国文学国語学科太田登教授に、御礼申し上げます。